

令和5年度後期「子どもの提案」に寄せられた意見

※明らかな誤字などを除き、寄せられた意見を掲載しています。
 ※1と2で重複する提案は、提案者本人から両方についての提案であるとの指定があったものです。

テーマ 認知症の人にやさしいまちになるためには
 1：認知症を正しく理解するためには？（585件）

提案内容
<p>認知症の人々が集まるクラブをつくりいろいろな場所をそのクラブで周りをこうえんしていくといいと思います。 こうえんを聞いた人はただ聞いただけだと実感がわかないのでこのクラブの会員で健康な人を連れてまわっていくといいと思います。</p>
<p>認知症を理解するためには、一般市民の人々に伝える必要があると考えます。 まずは各自治体（市、区、町、村）で、認知症の説明、を行い（講義などで）認知症に対する偏見や差別をなくしていくことが大切であると考えます。 そうすることによって認知症を正しく理解することができる考える。</p>
<p>地域で募金を実施して、認知症の人への支援にする。 認知症を正しく理解し、認知症の人を思いやれるようにする→みんなが通りかかるようなところや見るようなところに、認知症について詳しいことをポスターにする。 認知症のプロに講義してもらったりする。 実際に認知症の人に出てきてもらって偏見や差別の撤回を呼びかけてもらう。</p>
<p>認知症について正しく知ってもらうために、公共しせつで認知症についてこうえんしたり、それを講演できるような、しせつ（人々があつまりやすく、かいてきなしせつ）をつくれれば良いと思う。 もっと多くの人に知ってもらうために、それにかんするサイトをつくり、そのサイトを多くの人に利用してもらえるように、駅や公共しせつにそのサイトに関するポスターをはれば良いと思う。 学校や会社などで認知症について専門家やくわしい人に説明してもらいたいと思う。 ほとんどの家庭にテレビがあると思うので、広告としてテレビで放送するのはどうか。認知症の人とふれあうきかいをふやす。</p>
<p>認知症の人目線のVRをつくって体験できるようにする。 そのVRを無料で体験できるし設をつくる。 小中学校の特別授業などで認知症についての授業を行い、子供たち認知症に関する正しい知識を身につけさせる。 街で募金を行って、認知症の人の介護などに必要な費用にあて、家族にも働く余裕を持たせる。 高齢者の認知症防止のため、パズルなどの頭をつかうことができる施設をつくる。 認知症の人やその家族にお金がいくような保険制度をつくる。 社会人などにも認知症について知ってもらうため、街に認知症に関するポスターをけい示する。</p>
<p>小学校の時から特別活動等の時間を通じ、認知症について知っている状態にし、中学校の時に本格的な認知症についての授業を行う時間をつくってあげばよいと思う。 また、認知症についてより広く知るため、市役所等に認知症等に認知症の人はどのような症状があるかを知れるブースを作ったり、そもそも認知症になったときに相談することができる相談窓口（電話やメールも使えるようなもの）をつくるべきだと思う。</p>
<p>小・中学校に認知症のことを知ってもらうため、認知症の人の施設に見学させたり、認知症の人の生活を見せたり、どんな種類があるのかという講座を開いたらよいと思う。 また、「認知症の人は不幸なんだな」と誤解されないように、認知症の人たちの自伝を読むことをすすめるべきだと思う。 認知症について未来を担う人が間違った知識を持たないように、学校で考える時間を設ける必要があります。 そうすれば、過去のように認知症による差別・偏見などが日本からなくなると願っています。</p>
<p>掲示板を設置する。 埼玉県ホームページに書いたりテレビやスピーカーの放送などで認知症について説明する。 街中で認知症についての演説をする。 ポスターを電車やバスなどの目に止まる場所に設置する。 認知症になる可能性があることを知ってもらい、危機感をもたせる。 福祉事務所などへの料金を高くする。県で募金を実施する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を知らない人に理解してもらえるよう、講座や説明会を開く。 また、認知症の体験ができるような体験会を開き、認知症の人がどのような思い・状況になっているかをたくさんの人に知ってもらう。 ・ポスターをつくり、現状をいろいろな人に知ってもらう。 ・認知症について学ぶ機会やクイズ形式などで楽しく知ることができるサイトなどを設けて幅広い世代の人々に知ってもらうことがいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校などで、認知症になったらどのようなことが起こるのか、説明するようにする。 ・小学校などの校外学習として、認知症の方に会いに行き、少しでも楽しい思い出をつくる。 ・認知症になった人が、脳を活性化できるようなパズルなどを提供し、少しでも記憶力等が保てるようにする。 ・認知症の方の豊富な経験を学校で話してもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方々とのレクリエーションなどをする⇒認知症の方々と接することで理解を深められるのではないかと。 ・小学校・中学校などで、実際の認知症の方の家族から話を聞く機会を作る。⇒実際の苦労などを聞くことで、応援しよう！などという気持ちにさせる。 ・ポスターなどを作る【例】〇人に1人が認知症です（になる可能性があります）等⇒興味や関心を持ってもらうきっかけをつくる
<p>年に一回小学校などで、認知症の講座を開き、認知症に対する認識を正しくさせる、合計六回行うことで認知症に対する認識を深める。 道徳の教科書でも取り扱う。 また、医療技術の進歩などで認知症の人を救えるようにするために病院や、研究所などに寄付をして、ニュースなどに放送されるなどで認知症を周知させる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビのコマーシャルでの「オレンジリング」や認知症の正しい理解に向けた説明をする。 ・「認知症サポーター養成講座」の認知に向けて市役所や公民館などの身近なところでの開催を多くする。
<p>学校での講演会をするなどこれからを担う世代への周知をしっかりとしていくとともに、今の世代にも、しっかり理解してもらっていく。 また、最近の医りょう技術も進歩しているため、認知症は不治の病から薬によって進行を止めたり、治したりできる病に変化していることなどを周知する。 その上で定期検査等で早期発見することを後押しし、重い認知症を持つ人が減少したら、認知症への理解があり、健康な社会になっていくと思う。</p>

提案内容
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方のお世話に必要な物が安く買えるようになるパスポートをつくる。 ・介護老人しせつを市が新たに作って、数をふやして、市が経営していく。 ・地域に認知症の人とその家族が集まれるような機会を作る。 ・認知症の人への理解を深めるためにポスターなどをせいさくしてはる。 ・認知症の人へのリハビリサービス用のしせつを新たに作って運営する。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がいる家族に向けて認知症に関することを説明する ・小・中学校などで認知症になるとどのようなことが困るのか授業する ・家族に認知症の人がいる人に困ることや、改善してほしいことなどを実際に聞けるイベントを開く。
<p>認知症は身近なものであり、だれでもなる可能性があるため、はじる必要はないということポスターなどにしてけいじする。</p>
<p>どの年代にも正しく理解してもらうために、ネットを使ったりポスターをはったり、認知症について知るための講座をひらいたりする。そして、認知症に対する誤解や偏見をなくし、家族や知り合いが認知症になっても隠さず、地域やサポーターからの助けを得られるようにする。さらに、認知症になった方と交流をし、想像していた認知症との違いを知ってもらう。</p>
<p>認知症とは何かを具体的に理解したり認知症の人の生活の実態を知ったりする。 認知症にならない予ぼうをする。 認知症になってしまった時のリスクを理解する。</p>
<p>「認知症サポーター養成講座」に参加して、認知症について知る。 そして、その知識を家族や地域などで共有し認知症について知ったうえで認知症の人と関わり、認知症の人が困っている時など協力して助けるようにする。</p>
<p>誰にでもなると認識してもらう。 そのために小さいころに認知症の人と関わり合えばいいと思う。 老人ホームなどに気軽に訪ねられるような施設整備が大事だと思った。 また認知症に関する正しい知識を入れるための学校での教育が重要になってくると思う。 それと、この紙に98000円もさいているのは良くないと思う。 その金を認知症の支援金にした方がよっぽどいいと思います。</p>
<p>学校で認知症について授業を行う。 老人ホームなどを訪問して認知症の人とふれ合う。 認知症について知る講座をもっと宣伝する。 誰でも認知症になる可能性があることや、認知症の人にどう接したらいいのかを知れる場所をつくる。</p>
<p>認知症の人が周りから分かるようにするだけでなく、それだけではそれを見て差別、ぎゃく待をする人もいるかもしれないため、認知症への理解を促進するための本などを出版する。 また、認知症への理解を広めるため講座を開く。 公民館などの多くの人が利用する場所にポスターをはる。 認知症の人と触れ合える場をつくる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の当事者が講演を各地で行う。 ・認知症を正しく理解してもらうためのポスターをけい示する。 ・さいたま市が認知症についての動画を製作し、インターネットにあげる。 ・認知症を正しい知識をまとめた広告を出す。
<p>認知症のことを正しく知るためには、認知症の方々と実際にふれ合ってみることが大切だと思います。 そうすることで、その人やその家族に対してどうやって接してまたどうやって援助してあげればよいか分かると思いました。</p>
<p>認知症サポーター養成講座についてのポスターを配る。 市庁舎で認知症の人を集めて集会をする。 認知症の家族に講演会をする。 HPに認知症の相談ができるものを作る。 この紙に98000円を使わない。 学校で認知症の教育をする。 老人ホームなど認知症を防ぐ活動をする。 認知症の定期検査をすすめるポスターをはる。</p>
<p>認知症を正しく理解するためには、認知症を体験できるセンターなどを作り、認知症のつらさ悲しさなどを知れる機会があると良いと思いました。 正しく理解した後は認知症の病気というがいねんを大きく変えられるようなとりくみをしていけば</p>
<p>認知症の人はどう見えているのかを体験できるようなものをつくる。 認知症とはどういうものかを伝えるパンフレットなど。</p>
<p>認知症に関するパンフレットを定期的に配布する。 子どもの内から認知症のことをよく知るために、身近な人に認知症がいる人に認知症についてくわしく教えてもらう。 テレビなどで認知症に関するCM・テレビ番組を放送する。 新聞で認知症を正しく理解する。 実際に認知症の人と接したり介護したりする。 ポスターを作る。</p>
<p>そこで裏面に書いた認知症によって何もできないという誤解を消せばなんとかなります。（大切なことは認知症でもちゃんと覚えられると聞きましたし。） よって、認知症による障害がどのようなものかを詳しく説明すれば認知症の人達への差別が減ると思います。 そこで認知症を詳しく知ってもらうための講座を認知症の人達への差別している人達に受けてもらいましょう！！ 私が言っている講座は差別を減らすための講座なので差別をしていない人に受けてもらっても意味がありません（ちょっとした得にはなりますけど） お互い差別をなくせるようにがんばりましょう！！</p>
<p>公共の場に認知症を知るためのポスターを貼る。 それでもだめならば、学校で、演説をおこなう。 さらに認知症のイベントをひらいて子どもも参加できるようにゲームにする。</p>
<p>1. 小学校の時に障害をもつ人を正しく理解するために、その人達を応援している団体が学校を訪れ、応えんする側・される側を経験したため、同じように認知症の応援をしている団体が学校を回って体験できる場を作ったら良いと思う。2のように存在を広めることで団体を大きくして団体の人数を増やせと思う。 2. 認知症の人達を応援している団体の存在を広め、認知症の人やその家族が現状を地域の人に言いやすくできるようにする。広めるために、地元の掲示板にはり紙をはると良いと思います。</p>

提案内容
<p>小学校などで認知症についてくわしい人や団体のはなしを聞いたり、認知症についてのパンフレットなどをつくったりする。 認知症の人と直接はなしたりできる機会をつくる。</p>
<p>認知症の人の悩みを劇などで少し大きめに話すことで、見た人たちに印象付けることができると思う。 また、「認知症完全攻略マニュアル」のようなものを作り、この時にどうすればいいのかわかるようにしたらよいと思う。</p>
<p>認知症を正しく理解するためには、同じ人間として接しようとするのが重要だと思います。 認知症の人は「話がやく感じて聞きとれない」「同じ事をなんとも聞かぬ」「もの忘れ」などの症状があります。 しかし介護の人がこれを知らないでただただストレスがたまってしまいます。 つまり、介護の人が認知症について正しく理解するためには自分の目線からだけでなく認知症の人にどう見えているのか考えることが重要だと思います。</p>
<p>認知症の人々の社会復帰を目指すため、認知症の人々が注文を取る食堂を作って「注文を間違える食堂」として認知症の改善をする。</p>
<p>さいたま市の全小・中学校に認知症サポーターの人の話をきく授業を導入する。 年に一度くらい認知症しんだんをしてみる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを作る⇒閲覧板で回す！学校で配る ・身近な人で認知症がいる人に補助金を出す⇒カウンセラーを作る ・ボランティアで家庭に訪問できる人を集めて身のまわりの世話をしあげる⇒人が集まらない可能性大
<p>若者層への認知症の理解のため、認知症のことを啓発する講座を開く。 また、相談窓口での対応を積極的にを行うようにする。</p>
<p>人間は昔から自分とへだたりがある者を嫌う傾向があります。 例えば江戸時代後期に黒船に乗ってペリーが日本に来た時日本人は恐れていたのは（たぶん）周知の事実です。 だから「認知症はほかの人とへだたりがある」と大衆が思っているから誤解や偏見が生まれるのだと思います。 そこで認知症はほかの人とは偏りがないことを証明すれば偏見や誤解をなくせると思います。 認知症は自分達より少し忘れっぽいだけで自分とはあまり差がないということを新聞や広告等で伝えていくと良いと思います。</p>
<p>認知症を正しく理解するためには、認知症はどのようなものなのか、また、認知症に対する偏見や誤解をなくしていくためのチラシを全家庭に配ったり、学校や公民館などで講座をするのがいいと思う。</p>
<p>身近な人に認知症の方がいる人、いない人に認知症についてのアンケートをとり、認知症に対してどのような考えを持っているかを知る。 そして、認知症の方とそうでない人が触れ合えるような行事を作る。</p>
<p>認知症についてのポスターをつくり、どのように接すればよいかなどを理解することで認知症の人が暮らしやすいようにする。 また認知症の人が入れる施設を作りサポートしていく。 実際に、認知症の人と話す。</p>
<p>認知症のことについて詳しく知ることができる講演会をかいさいする。 小学校や中学校に認知症の人やその家族、認知症サポーターなどを呼び、未来の社会をになう子どもたちに認知症のことを伝える。 補助金をだす。 パンフレットを作る。</p>
<p>小学校や中学校で認知症にくわしい方やその家族の方が認知症について説明する。←説明する際に子どもたち自身が認知症になるとどうなるかや、もし親がなってしまったとき、どんなしょうきょうなのかを体験できたらおもしろそうだった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症というのは、なかなか調べようと思わないと調べる機会が少ないものなので小学校や中学校などに1回程度「認知症について知る会」的なものを設けるといいと思う（実際に認知症の方やその家族の方を呼んだりして話を聞いたりする・認知症がどんな症状なのかをアニメを作ってみせるなど） ・小学生や中学生でもとっつきやすいような、あまりかたすぎない認知症についてのサイトをつくる。
<p>年に数回、認知症についての正しい知識を学ぶ講座を開きそれを回覧板や掲示板等で知ってもらえるようにすると良いと思う。 また、学校でも同じようなものを開き次の世代にも理解してもらえるようにすると良いと思う。</p>
<p>認知症の人の介護を交代で若者にさせる。 イベントで認知症の人がショーをして、まわりの人に理解してもらう。</p>
<p>認知症を様々な人に正確に知ってもらうためには、短時間で拡散されやすいネットの力を使うのが良いと思います。 ですが、ブログや市役所ホームページにのせるだけでは十分な拡散効果が得られません。 また、多くの人が見る動画を投稿できるSNSで動画を上げたとしても、SNSは関連情報の入った動画しか出てきません。 現代の若者は検証やゲームといった動画ばかり見るので認知症にまつわる動画は出てこないと考えるべきでしょう。 ですからそれを多くの人に拡散するためには有名インフルエンサーに紹介依頼を行ったり広告として認知症の人の情報を発信するのはどうでしょうか。</p>
<p>地域などで認知症について知れるイベントを開く。 認知症の人とその家族がいるイベントを開いて実際に会ったり、見たりすることで理解を深めてもらう。 介護の体験もできるように。 気軽に認知症の人について知れるようにする。 例えば、人がよく見るところなど（インターネットなど）それぞれの学校で認知症について公演する。 パンフレットを作って配るなど。</p>
<p>実際に認知症をもっている方たちと会うことができる機会を設けることで目の前にある問題に自然と目を向けるようになり認知症への興味が湧くようになる。 さらに「認知症」を題材として収録されるテレビ番組やネットニュースなどで身近に学ぶことができる。 しかし少ない情報から一気に全てを理解したと思いきやさらに題材は同じだが視点などが違うものなどを見て見比べることで偏りのない客観的かつ正しい知識を得て理解することがきでる。 しかしまず認知症に興味が無い状態ではそのテーマの記事などを見る機会が無いため、どうしても理解ができない。 だから結局は実際に認知症をもっている方と会う機会を設けるしかないと思う。</p>
<p>認知症は認知症になってしまった人にしか分からないものなので認知症になってしまった人に協力してもらい認知症の人はどんな物が見えてどんな気持ちになるのかを実際に認知症になってしまった人が認知症を詳しく知らない人に教えたり認知症を体験できるVRを作ってたくさんの人に広めていって自分が認知症になった時にそなえる。 世の中の人全員に伝わって行って、みんなの共通した意識があればみんな認知症を正しく理解できると思いました。</p>
<p>認知症についての正しい知識を知ることのできる「認知症サポート養成講座」というものがあることを広めていけばいいと思う。 認知症の人は自分が認知症だと偏見などの関係から言わないことが多いので、認知症のことを正しく理解している人達「チームオレンジ」の存在を広めていけばいい。 そのためにはまず介護のための環境をととのえたりすることや認知症だと感じても無視したり嫌がらせをしたりすることなく接していけば住みやすい地域になると思う。</p>

提案内容

<p>認知症は周りからめんどくさいように感じられているように思えます。 そのような知識を変えるために認知症の大変さを周りの人達に知ってもらう必要があると考えました。 例えば認知症の人の1日をまとめその他に生活する上でどうということが大変かを書いたポスターをデパートなどの公共施設に掲示したり全国の学生に配布したりするとよいと思いました。</p>
<p>老人ホームをより多く設置し高齢の方々が安心して体を休められる時間を増やしたい。（認知症の人だけでなく） 認知症の人は病気にかからないために、病院の設置や数々の免疫を作るべきだと思う。</p>
<p>認知症について知る講座を開く。 そのために市役所を身近に感じてもらえるようなイベントを開く。 市役所などの国の機関が行うイベントにはあまり行く機会がないうえ、いつ行っているなどの情報でさえ知らなかったからです。 なのでまずは市役所などの国の機関を身近に感じてもらえるようなイベントを開くことが大切だと考えました。 また動画を投稿できるSNSなどのネットを使って宣伝したとしてもそもそも市役所などの国の機関の内容はかたいことばかりなのでもっと身近に感じてもらえるようにすると少しは視聴者は増えると思いました。</p>
<p>認知症の人をその家族が安心して住ませられるような施設をたくさんつくりどこに住んでいても症状が重くなった時に安心して預けられるようにしておく。 →認知症は自分で様々なこと（運動や家事）をいつもしていたり会話をする機会が多いと進行を遅らせることができるので症状の重さによっては自分で家事などができたほかの認知症の方と話すことが多いような施設をつくる。 認知症は全てのことを忘れるのではなく人によっては好きなことはいつまでも覚えていたり幼いころの事は忘れなかったりすることもあるという考えを理解する。</p>
<p>行政がパンフレット等での呼びかけを行う。 パンフレットは市役所や区役所で配り大きなポスターを会館、公民館、学校などにはる。 市議会職員が駅で街頭演説をし認知症の人を正しく理解する必要があることを強くうたえる。 特養が少なすぎる認知症の家族であるその人の息子、娘の世代は働いている人が多く一日つきっきりでいることは難しい。 特養だけではなくが全体的に老人ホームやデイサービスが足りていない。 人手も足りていない。 IT技術などを導入し業務を効率化していくべきと思う。</p>
<p>詳しい認知症の症状を知ることはもちろん認知症の人にとって周りがどのように見えるのかも理解することが必要だと思います。 認知症ではない僕達の視点から物事をみると認知症の人達の視点で物事を見るのではとても大きな違いがあります。 物事の理解力や記憶力の違いから認知症の人やその周りの認知症ではない人にストレスが生じてしまうのではないかと思います。 その結果認知症の人がどのような考えをしているのかを理解しようとしなくなって問題が生じています。 認知症の人がどのように物事を見てどのような考えをしているかを多くの人が知る事ができたら認知症への理解が深まると思いました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 認知症についてまとめた動画を作る→学校などで見てもらえるようにする、街中で流す。 有名な芸能人と一緒に認知症について学ぶ、というテレビを企画する。 認知症の人が集まれる集会を開く→地域の人も参加（任意）認知症の人の家族と一緒に昼ご飯を食べたりゲームをしたりする。 ポスター、掲示板、メール、やすらぎの場 認知症の人に家族が集まって相談しあえるお悩み講座のようなものを開く。 チームオレンジに入る人を増やすために市のホームページや掲示板にそのことを書く。
<p>認知症について詳しく知るために何か月かに1回認知症の症状についての説明会のようなものを地域で行う。 また各家庭でインターネットを使い認知症について調べる。 仮に地域の人の中に家族が認知症だという人が居ればその人にも話をきいてみる。</p>
<p>学校などで認知症について学べる授業などを作る。 また認知症の人について学びきっかけとなるようなポスターを作り掲示する。</p>
<p>地域の人たちで集まり年に数回認知症がどのようなものなのか、また認知症になりにくくするための工夫はどのようなことができるのか、などの認知症に関する情報を共有する会を開く。 そしてそこで実際に家族・知人に認知症の人がいる方や認知症に関する仕事に就いている方をお呼びして、介護の仕方やコツ、認知症患者とのうまくつきあい方を教えてもらったりするなど。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 自分が認知症であることを表すマーク等をつける（障害者マークみたいな？） 認知症には多くの種類があるということを知らせる 認知症の人による話題のセミナー？を開く 認知症のレベルを分けてレベルが高いほど補助を優先的に行う。 認知症の人だけの集会を開く
<p>まとめサイトのような物を設ける。 学校の授業で認知症を教える←身近な病気だということを教えて誤解や偏見を生まないようにする。</p>
<p>認知症の人がつけるリングをつける。 または「助けてほしいです。」と書かれているマークみたくのをつくる。 認知症に対して悪いイメージをつけないようにする。 「病気で聞く」と悪い思いしかしないけれど認知症は誰でもおきるかもしれない病気なので、病気を知るためにでもいいから助けてあげてください」みたいな？ 偏見によって家族は相手を困らせちゃうとか、自分達のはじをかいちゃうとかと思うので、偏見をなくするような運動や、認知症の症状は記憶がなくなる病気じゃないよなど周りに発信するようにする。 認知症を知る動画や新聞などをつくって周りに発信する。</p>
<p>ポスターや学校などで認知症について考える機会を作る。 認知症を正しく理解している人が少ないのは理解をする機会が無いからと考えたので、市で配るパンフレットに認知症の事を書いたり、市で講演会や説明会などを開いて、理解をする機会を増やす必要があると思う。</p>
<p>普段友達との会話などでは「認知症の人は気味が悪い」などという考えがよく口にされる。 自分も、そう思ってしまうことが多々あるが、「いずれは皆がそうなることが多い」と考えると、そんなことはないはずだと分かる。 なので、認知症に対して皆が正しい知識を持つことが、認知症の人を応援することにつながるはず。 中・高生にその正しい知識を伝えるには、学校の図書館にそれに関する資料や本を置いて手に取れるようにしたり、電車の広告なども、電車通学する人にとってはよく目に入るのだから良いのではないかなと思う。 認知症について正しく知れば、実際に認知症の人に出会った時の反応や対応が分かるし、介護をしてくれる人も増えるはずだ。</p>

提案内容

学校で認知症についての授業をし、ただのボケ老人と思うのではなく、認知症という病気をもったかわいそうな人と授業で取り扱ったほうが良いと思います。
そして認知症の人には認知症であることを示すものをもたせる。
それをもつことで他人に迷惑をかけても認知症であることから、変なことはされない。
カウンセリングを受けることで、認知症のおじいちゃんおばあちゃんの介護に限界を感じ認知症の人をほったらかしたり、最悪の事態を防げるから。

学校などを訪問して認知症を広めるようにする。
ボランティアを募集する。
小さい頃から知っておくことが大事であるので、小学生低学年にも、しっかり知ってもらうことが大切である。
また、低学年から認知症の認知が高ければ中学生、高校にあがっても認知症がどういふものか知っておくことができ、軽く考えたり、自分に関係ないと思ったりして、理解をそもそもしない人が減ると思いました。
私も「認知症」という名前しか知らないなので、そのような場が設けられたらとてもうれしいです。

認知症が起こる理由や、その他の認知症にまつわる様々な正しい知識をちらしやパンフレットなどにして多くの人に知ってもらおう。
また、学校の授業などでも、もしも身近な人が認知症になったらどうするかということを知り考える学習の時間をもうける。
それによって実際に認知症と向きあうことになっても、とてもあわててしまうことが減ると思う。
認知症の方の支援やかいごをしている人達のことを助けるヘルパーのような仕事を市でつくり、無料もしくは安い金額でかいごしている方々がやとえる制度をつくる。
また、そのヘルパーのような方々には市が給料をわたして、公務員の方々のようにすれば求人が入ると思う。

ポスターなどで認知症のことを多くの人に知ってもらおう。
人の目につく所にはり紙をする。

沢山の人が知ってもらうために、動画を投稿できるSNSなどで認知症についての分かりやすい動画を作る（専門家の方などと一緒に正しい情報をもとに作る）
動画を投稿できるSNSやテレビ・ラジオのCMで（動画ではスキップできない）認知症について正しい情報をもとに流す。
インターネット上でアンケートを設ける

認知症についてのポスターを作成し公共の場などに貼り若い人達にも理解してもらおう。

私達は認知症を正しく理解するためには
①会社や学校などで講師（介護士など）による講義を行い社会人や子どもの認知症への理解を深める。
②SNSを使って実際に認知症の方の介護をしている方から認知症の方の日常や介護をしている方の日常について発信する。
③民間企業が提供するVRで認知症を体験できる場所を各地にもうける。（ただし値段が1日につき18700円と高額なので、会社との協議が必要）などのことをすればよいと思います。

小学校などで認知症はどのようなもので今後どうしていったらいいのか伝える。
低学年は理解があまりできないと思うから高学年を対象にする。
他にはポスターを駅や電車内に貼ったり、テレビや動画を投稿できるSNS、その他の広告にしたりする。
認知症サポーター養成講座は学校のプリントとして配って人を呼びかけたらいいと思う。

説明会を開き認知症への正しい知識を広める
認知症についてもっと知れるように市民に向けて説明会を開く。
すぐに認知症だとわかるように何かのマークをつける。
認知症の薬を作る

動画を投稿できるSNSの広告に認知症を理解するための動画をつくる。
アニメや漫画をつくりSNSにアップする。
認知症の人が集まる場所をつくる。

CM、テレビなどのメディアを使う。
またSNSも使用する。
ポスターを駅などにはる。
学校で講義する。
学校の道徳とかの授業にとり入れる。
ティッシュにかく（配る）

広告を出す（電車に出す）認知症限定の介護老人ホームをつくる。
ふるさと納税がんばる。

- ・市役所で認知症についての講座を開く。
- ・さいたま市が発行する新聞に認知症についてかく。
- ・認知症についてのポスターを出す。

- ・ポスターを作る。
- ・学校で認知症についての講義を行う。
- ・認知症についての講座（？）を公民館などで開く

認知症について学ぶ講座を開いて、みんなに直接伝える。
また、地域の小学校や中学校で認知症とはどのようなものなのかをまとめたパンフレット等を作成し、それを配布する。
特に認知症の方の話などを上記のパンフレットや、社会科の教科書等をのせて子どもたちを中心に認知症がどのようなものなのかを知らせる。
また、認知症のことについて知れるホームページを作成し、誰もが理解しやすいようにこまごまを工夫する。
認知症の方が集まって、集会をつくり、日々のつらいことや悩みごとを相談できるようにする。

まず認知症を科学的に説明し、なる原因やどんなことが起こるかを学んだり、授業などの学校内で説明をした方がいいと思う。
なるべく認知症の方がわかりやすく、覚えやすくするためにあまり外見を変えなかったり、もし迷子になってもすぐわかるようにGPSをつけたいと思う。
そして家族全員で応援できるように遠い親戚などにも話し協力してもらおう。

- ・埼玉県さいたま市などのCMで認知症のことを伝える（認知症でもできること認知症だと難しいものなど）
- ・ネットなどに認知症にかんする情報をアップする（市のホームページやそれにまつわるもの）
- ・一時的に認知症の状態になることができるそのものを作ってそれを多くの学校で回して使ってみるようなことをする。
- ・ポスターを作って掲示板にはる。

小学校の授業時間の1時間を使って認知症について自分で調べてノートに感想を書くということをするべきだと思う。
なぜなら他人から教えてもらおうと他人事になってしまい、あまり実感がわかないが、学校で支給されたパソコンを使い、調べることで他人事から自分ででき、ノートに書くことによって自分の考えを深くほりさげていくことができるのでセットでやるべきである。

提案内容

病院や公共施設に認知症の対応方法や、どんな気持ちで毎日過ごしているのかを書いたパンフレットやちらしを無料で置いたりくばったりする。できるだけ興味を引きたいので、四コママンガのような要素も含んであるといいと思う。

子供も楽しく読めるし…

置りたみできる大きめのパンフレットなど。

まとめ：このようなものを市役所、病院で配る。またはパンフレットにしたり駅で配ったりするのもいいと思う。また、より見てもらうために待ち時間を利用して置いたり、配ったりするのが一番いいと思う。

<ちらしの例>

認知症の理解

私たちができること 改善方法など

毎日どんな気持ちで過ごしているのか

助けてほしいこと等

当し者にインタビューしたことを書いたり

四コマまんがでその様子を

認知症になられた方からは難しいからその家族の方から今まで苦労したことや辛い思いなどを話していただける機会や公演を行う。その話を聞いた人(子供)がポスターを作り、もっと広がるようにする。

認知症はお年寄りの物という偏見をなくし若くてもなってしまう人がいるということを広めるべきだと思う。

インターネットで調べる。

身近な人に聞く。

本で調べる。

実際に認知症の人と合う。

認知症を正しく理解するためには埼玉県内の小中学校で認知症に関する授業を専門家などをまねいておこなったり、親などが認知症になりやすい年齢になった人に対して、認知症かもと思ったらどうすべきか、その兆候や症状について説明したり、介護することになったら、介護の方法について説明する。

または、県が認知症についてのパンフレットなどを配るといいかもしれない

1 認知症についてをできるだけ多くの人に知ってもらうために中学校の保健の授業で扱ってもっと身近なものにする。

また、動画を投稿できるSNSなどで面白く認知症について理解できる動画をあげたりして若い世代の人が興味を持ってもらえるようにする。

2 認知症の人が家族や近所の人と会話できるスペースをつくって悩みや考えをまわりに言い出しやすくする。

認知症について話す場を地域で設け認知症の人がいる家族などの人が地域の人に日常生活のことについて話してもらう。

認知症についての本などを出版する。

図書館や本屋に認知症について書いてある本を1ヵ所にまとめたコーナーをつくる。

そして、そのコーナーに認知症について軽くまとめたポップみたいなものをつくってみる。

また、本は説明文みたいなものだけでなく、物語文など楽しく読めるものを置く。

小さい子にも分かりやすいような絵本とかもしあったらそれも置く。

また、認知症になると、どのようなことが起きてしまうかや認知症になる原因などを説明する会などを設ける。

また、SNSでの広告などを用いて、スマホを見てパッと見に入るようにする。

そしたら少しでも多くの人に認知症というものを少しでも理解してもらえと思う。

少子高齢化が進む中、認知症の人の増大は避けられないことでありポスターなどで貼り出すことが手段としてあげられる。

また認知症を正しく理解するセミナーの参加を大々的に呼びかける。

また中学校などの教育機関などでも出張セミナーなどでやっても良いと思う。

認知症を正しく理解するために、認知症についてまとめた本を売り出したり、認知症についてよく知っている人が認知症について語るイベントなどを開くと良いと思いました。

私はまず地域の人に認知症について詳しく知ってもらうことが必要だと思います。

まだ認知症について全然知らない人や知識がないために認知症について全然知らない人や知識がないために、認知症の方も周りも過ごしにくくなってしまおうと思います。

そこで、知ってもらうために、認知症についてのポスターを作ったり、認知症について学ぶ機会をつくるのが良いと思います。

これらをやって認知症の人やその家族を地域で少しでも応援できたらいいと思います。

認知症のことをインターネットや本などで調べて認知症の人に会ったときには適切な対応をとれるように心がける。

認知症について学校でも授業をしたり、地域の掲示板などの認知症のちらしなどをはって、より多くの人に認知症について理解してもらう。

また、認知症の人やその家族を応援するために認知症の人の家族の気持ちなど、相手の立場や状況を想像して思いやりの心をもつことで、他人事としてとらえるのではなく、身近なこととしてとらえるようにする。

認知症を、よく知ってもらうために、認知症こうざなどを学校でするか、地域でかいさいすればいいと思う。

かいさいする時は、認知症への偏見をなくすために、認知症と普通の人の違いを解説すればいいと思う。

認知症の人を応援するためには、まず認知症へのへんけんをなくしたらいいと思う。

認知症をほとんどの人が正しく理解するには、しっかりとした原理の説明が必要だと思う。

認知症の人は認知症だからこういうふうになっているという考えじゃなくて、認知症の人は〇〇だから〇〇でこんなふうになっている、という考えにした方が周りからの理解も得やすいと思う。

だから、どこかの市役所などで定期的に認知症の説明会を行ったほうがいいと思う。

また、認知症に関するウェブサイトを作ったり、パンフレットを発行して各家庭に配ると、よりよいと思う。

このようなささいなことの積み重ねで、ほとんどの人が認知症を正しく理解できるようになると思う。

認知症は身近な病気であるがために誤解や偏見などが生まれてしまう。

それを解決する。

具体的な方法としては、認知症の症状を広げる。

そうすれば認知症による誤解がなくなり正しい認知症に対する態度になる。

偏見は深くまで根づいているので誤解を無くさないと偏見がなくなる。

なぜなら深く根づいている理由は基本誤解によるものだからです。

だから、誤解を、認知症だから〇〇をなくす。

認知症に関する講座を定期的に関く。

また認知症の人がどれくらいの割合でいるか、や認知症の人を手助けしたり、認知症の人とふれ合うことで認知症についてたくさん知ることができると思う。

また、街中に「認知症とは」のようなポスターを作成し、けい示していけば良いと思う。

また認知症の人を応援するにはその家族などが講座に講師として出席していただいて講演をすればよいと思う。

また認知症の人の脳の病気を軽減または完治させるために募金活動を行っても良いのではないかなと思う。

提案内容

<p>認知症についてポスターなどをけいじする。 図書館の「いましてほしいこと」みたいなコーナーをつくって、認知症がだいざいとなっている小説や絵本、マンガなどをおいておく。 認知症サポーター養成講座のポスターを配布したり、新聞紙にはさんでいるこうこくなどの紙といっしょにはさんだりして、いろいろな年齢の人に『認知症』を知ってもらおうようにすると良いと思います。</p>
<p>認知症を身近に感じるために子供に認知症とはどういうものかどうなるのかなどを教え知ってもらうことで、その子供たちがその話を家族に話すことでたくさんの人に知ってもらうことになるし、家族の中で認知症になってしまっても正しい対応が出来る。 さらに、子供たちが親となる世代になればその子供、孫にまで伝わり認知症の正しい理解をどの年代でも出来るようになるということから、子供たちに学校やイベントで認知症を知ってもらう機会をつくるのがいいと思います。</p>
<p>認知症の人の家族などであつまって、どんなところで困っているのかを話してもらおう。 それで、自分の身の回りの人が認知症になってしまった時に、その経験が活かされるし、認知症の人の家族の人は、意見を聞いてもらえて、ストレスなどがやわらぐと思うから。</p>
<p>認知症についてよく知らない人も多くいると思うので、認知症に関して理解を深めるための講座などを開いたらいいと思う。 そのとき、本当の認知症の人や家族を招いてはなしをきけるようにしたらいいと思う。 認知症の人や家族とふれあう機会をつくったらいいと思う。</p>
<p>認知症の講座を国や県・市で開き、多くの人に来てくれるように、市などの新聞で講座の存在を伝えるようにし、市民や国民が認知症になってしまふのを防いだり、認知症になったとしても、適切な対応ができるように、国や県という大きい単位で努力することが必要だと私は思っています。 早急な対応を求めている人がいることをわかっていますか？自分が認知症になったらなにをしてほしいかを考えれば簡単にわかることだと思いますがなれば ちなみにこれは、すべて読んでくれるのですか？</p>
<p>認知症についての講座を開いて多くの人に認知症を知ってもらうといいと思う。 認知症のことをポスターでまとめて色々なところに掲示するといいいと思う。 一人一人が認知症について調べ、理解するといいいと思う。 認知症の講座を学校や児童館など人がたくさんいるところでひらくと思う。</p>
<p>認知症の人たちでも働くことができるような仕事を認知症の人たちには提きょうする。 小学校・中学校・高等学校などで、認知症を正しく理解してもらうためのセミナーをひらく。</p>
<p>ホームステイのように、認知症の方と共に屋根の下で生活し、“認知症”に深くふれあう機会を設けることが必要になると思うので、子供にも関心、興味を持たせるためショートアニメや、マンガ、絵本などで、認知症をテーマに取り上げるなど幅広い年代の人々の意識を向けさせるという取り組みを行うことも良いと思うので、早急な対応を多くの県・市民は求めていると思っています。 がんばってください！！</p>
<p>認知症の方から直接話を聞いて、その話を新聞やTVなどで流して、もっと認知症を知ってもらう機会をつくる。 そして、認知症は他人事ではなく、自分も将来その可能性があることをよく理解してもらい、もっと身近に感じてもらう。</p>
<p>認知症について書いてあるポスターを街のけいじ板にはったりしたらいいと思う。 だれでも入ることができる講座をひらき、ほぼ広いねんだいの人に認知症の事を知ってもらうのはどうか。 市のホームページなどに認知症について書いたりしたら良いと思う。</p>
<p>地域で認知症を正しく理解するために、認知症センターを作るのが良いと思う。 その認知症センターには、認知症の人の頭の中や、どのようにしたらなってしまうのか、など、見にくる人に向けて興味を引くような内容が良いと思う。 その認知症センターはウェブにホームページを設けたり、安く入場できるようにし、気軽に見に来れるようにしたら良いと思う。</p>
<p>認知症の方が考えていることとかを知るために認知症の人と接する機会を設ける。 認知症について書かれたポスターをはる。 学生と高齢者が一緒に協力してできるゲームとかをやる。 身近な人が認知症になったときにどうするか考える。</p>
<p>地域で認知症の人について知るための、イベントなどをひらき、そこに参加してもらおう。 認知症の人とふれ合う場をつくる。小学生などで認知症についてくわしくなるために、講座をひらく。 認知症に関するポスターを地域の人たちがかき、そのポスターを掲示板にはる。</p>
<p>私は友達から聞いたり、ドラマを見たりして認知症という病気について少し知りました。 ですが、実さいに認知症の方と会ったことはないので会ったらやっぱり少し動揺して誤解をしてしまうと思います。 そんな人を減らすためにも、私は実さいに認知症の方と会う機会を作り、より多くの人に知ってもらうことが大事だと思います。 具体的には市民会館などの多くの人が集まれる場所で講演会のようなものを開き、認知症についてくわしく知ってもらいます。 ですが、そこに来てもらわないと困るので、小さな子供（幼稚園児など）がいる家庭にはその講演会を親が聞いている間に、地域の保育士さんと協力して子供を預かってもらったり、小学生にも楽しんでもらえるように、クイズ形式にしたり、終わったらおかしがもらえたりするようにすると良いと思います。</p>
<p>小学校で認知症について教えたりふれあったりする。 老人ホームに行く。 週に一回認知症を調べる。</p>
<p>自分のたよりにしていた親が認知症になることが切ないと思うと思います。 しかし、認知症に誰かがなっても、さびしいと思っても、介護をし続けて認知症になってしまった人の人生を全うできればそれでいいと思いました。 しかし、やはり、介護をするには一人は大変なので、助けあいながら、理解していこうと思う。</p>
<p>認知症の方と実際に関わる機会というのを行事としたり、認知症の方々と共に生活する人々の体験、話を聞くことで、より現実味を帯びた認知症の方々の生活を知ることができると思う。 しかし、一回だけではその大切な話を短時間で忘れてしまう可能性があるため、ある程度定期的に、話してくれる人を変えて様々な話をきくことが理解につながると思います。</p>
<p>市や地域で認知症を正しく理解するための講座やイベントをひらいて、市民の方々になるべく参加してもらおうようにしたり、ちらしなどの紙で認知症について伝える。</p>
<p>ポスターを作ったりして広める。</p>
<p>認知症を知ることができるパンフレットを作って配ってみたり、市内の小中学生に知ってもらうため認知症の講座を開いてみたりすることで、知られる機会が増える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちだけでも何か手助けをする。介護しせつを増やすべきでは？ ・お金があればすぐしせつに入れる。 ・認知症をよく知る（インターネットなどで調べる） ・道でこまっている人がいたら出来るかぎりて手助け。

提案内容

町にポスターをはったり、ホームページにのせたりする。
 広告などで、「認知症の人に優しい世の中を」などと流すのも良いと思う。
 CMなどを流す。
 さらに、認知症の人に優しい環境を作って、いろんな人知ってもらうのも良い。
 認知症の人専用のしせつをつくらたりして理解してもらおう。
 呼びかけをする。

認知症を知ることが必要。⇒
 ・ネットで調べる
 ・身の回りの家族などに認知症の人がいたら聞いてみたりする。
 ~ならないためには~
 頭を使ったり、少し体を動かしてみたり

動画やこうこくなどを通して伝える。
 認知症の人とあってみる。
 認知症の人になって体験する。
 懸賞金を与える。
 クイズする。

学校での道徳の授業で「認知症とは？」みたいな文章を教えて教育面に力を入れたほうが良いと思います。
 社会の全員に知ってもらうためには、若い世代に最初に知ってもらう必要があると思います。
 なので、役所の人々が学校に行き、学生たちに演説をするなどをしたり、道徳の授業で「認知症の説明」と「認知症にかかってしまった人が苦しんでいる」ということをみんなに伝えた方が良いでしょう。

町のしせつで、もっと運動ができるように地域の子どもなどで昔のおもちゃなどで遊ぶようにするイベントをつくる。

認知症を正しく理解するためには、認知症の人に実際に会って、話したりすることがいいのではないかと思います。

実際に会って深刻さを学ぶ。

認知症の怖さや、認知症に関係する内容を記したポスターやCMなどをつくらたり、お年寄りが気軽に参加できる町内会や交流できる場所を整備したりすることで人と人との関わる機会を増やす。
 小学校などで認知症について学ぶ機会（認知症の人がいる家族や集団を呼んで）をつくる。
 誰でも気軽に（個人情報などを出さずに）認知症について知れるホームページをつくる。

小学校低学年のはやい段かから認知症について学習する機会を設ける。

正しい情報をインターネットでしらべる。
 認知症は悪い印象があるからそれをなくさなくてはいけない。
 認知症を若者におしえる。
 認知症にならないようにおばあちゃんに頭を使わせるゲームをさせる。
 なるべくかいてきにすこしてもらおう。

認知症についてよく知るための講座を小学校でもする。
 余っている税金で医学を進歩させる。

インターネットや本などで調べたり実際にその人に会って不自由なこととか改善点とか過ごす中での不満、気持ちを失礼にならない程度に聞くこと。
 その気持ちによりそって自分と比べてみること。
 一緒に暮らしている人たちの考え方とか経験なども知りたいと思いました。

身近にいれば理解できると思う。

認知症の家族の方から実際に話を聞く。
 自分がそうなった時にどう思うか想像してみる。

認知症について自分でも考えるように認知症についての講座を中学校や高校などで開く

各家庭に「認知症について」・「認知症になったときどうすればいいか」が書かれたサポートブックを配る。

認知症のことを知り実際に認知症の人と会ってみる体験が必要だと思うし、これから少子高齢化がどんどん進んでしまうので、認知症にならないような対策も必要だと思いました。

認知症に対してまず自分が理解する。
 学校で認知症についての話をする機会を設ける。
 地域のイベントとして認知症を知ることができる講座を設ける。
 認知症に身内の人がなったときにどうしたらいいかを学ぶ。

にんちしょうの人に会う。

認知症の病じょうについてのパンフレットをつくらたり、認知症の人がいる家族の人が、認知症になった人はどんなことができなくなるなどについてもっと一般の人に説明した方が良いでしょう。

認知症がどうやってなるのか理解して学ぶ。
 実際認知症の人を見る。

認知症の人と触れ合う。調べる。
 大人に教えてもらう。
 講座を行う。

その人達に出会ったり話を聞いたり解説の動画を見たりする。

認知症の人にも思いやりをもって関わったり偏見を持たない。
 認知症の人とコミュニケーションをとる。

だれでもサイトに興味を持ってもらえるようにクイズ形式で子供も大人も楽しめるような認知症についてのサイトのページをつくらたりおススメすれば良いと思う。

認知症は誰でも発症する病気であることを知ってもらうことが大切だと思いました。
 認知症のことを自分の偏見で決めつけてしまうのではなく、正しく知ってもらうことでそのような誤解や偏見をなくせると思います。
 認知症の人でも暮らしやすい環境をつくるのが大切です。

認知症の人と地域の人で共に遊べるようなぎょうじ（百人いっしゅかるたとか）を開いたら良いと思う。

提案内容

<p>認知症サポーター養成講座はとても良いと思います。 ですが偏見を持つ人の内でそのような講座に行き正しい知識を得ようなどという人は少数なのではないでしょうか？ そこで僕が提案することは動画サイト、テレビ、新聞での広報、学校の授業で教える、認知症と診断された患者、家族に対して医師から説明をする、認知症の患者、家族との交流の場を設けるということです。 また認知症に対する偏見によって苦しむ人はさいたま市にとどまらず全国、世界にいるはずで、 なので国と協力して応援をするというのもどうでしょうか？</p>
<p>認知症について理解してもらうために、レジなどに認知症についてしょうかいするポップを置いたり、認知症に関する紙を駅などで配布することや、住民に配るなどとする。</p>
<p>認知症の症状を理解するため小学校や中学校で認知症の特別授業を開き、認知症などに詳しい、先生や専門家の方々にご来校していただき生徒や子供たちにとって身近な病気として理解がふかまります。 認知症の方たちも集まる会などをひらいて、認知症の方たちとふれ合う機会を増やす事もいいと思います。</p>
<p>認知症について正しい知識を若いうちに身につけてもらうために市内の小・中学校に出前授業をする。 認知症になったときはどのような生活になるのかを体験できる。 認知症体験サイトを設ける。</p>
<p>認知症を正しく理解するには家族や友人だけではなくそれ以外の人たちにも認知症の人達に対して正しく対応できるように症状の出方や進行を知る必要があると思います。 認知症の種類や特徴をしることで認知症の人たちの生活や介護計画づくりに役立つことができ、その人がこれからも快適に過ごせるように手伝えることもできるかもしれません。</p>
<p>認知症という病気を調べて実際に会ってみるといのもいい経験になるのではないかと思った。 認知症の人へのふれあい方などという症状を引き起こすかなどを知るといいと思った。 自分の母親や父親、近所の人になったら自分が病院にいらたりすることがあると思うからそういうときのために勉強をするのが大切だと思う。</p>
<p>認知症に対して関心をもたせるためのポスターやサイトなどをつくる。 また地域全体で行える認知症についてのイベントなどの行事をつくる。 具体的なのはなしを元とした演説や発表などを行う場所をもうけ本当はどのようなものかを知ってもらえるようにする。</p>
<p>認知症の人に対する正しいコミュニケーションのとり方を町にポスターではる。 認知症の方を介護している人からくわしい話をきけるような機会をもうける。 認知症の人への対応を家族で話し合っておく。 もし認知症になったらときどうするかを家族で話し合うことを推し進める。</p>
<p>認知症を患っている患者が身内にいる家族などの話を聞く。 認知症とはどういう病気なのか認知症に詳しい人が演説をする。 身近な病気だとは思っていない人も多いため、人通りが多いところや人が集いやすいところでポスターなどを配る。</p>
<p>認知症を正しく理解するために町に、ポスターをはったりして、一人でも多くの人に認知症の存在、認知症のことを知っている、という人も、考えを深めることができるし、自分の考えを改めたりすることができると思う。 また、裏面にあるように、認知サポーターの証である「オレンジリング」をつけることでより多くの人に認知症のことを知ってもらうことができ、また理解してくれる人が増えたり、手助けしてくれる人が増えるかもしれない。 また、難しいかもしれないが、認知症の人のための施設を増やす、ということだ。 そうすると家族の負担が減り認知症の人も安心な環境を作れると思う。</p>
<p>認知症という言葉を知っている人は多く、詳しくは知らなくてもどういうものか大まかに分かっている人も多いと思います。 しかし認知症のことを知っていても認知症の人がそれにどう思っているかは大多数の人は知らないと思います。 自分が認知症だと理解している人もいない人もいますし、しょうがないと諦める人も認めたくない人もいます。 その人達の気持ちや願いを聞き、ポスターの作成や交流の機会を設け理解を深められると正しく理解できると思います。</p>
<p>認知症を学べる講座や図書館にコーナーを作る。 学校の総合などに認知症を学ぶ時間を作る。 認知症は、色々な種類があることや認知症の人の接し方などを教える。 できるだけ認知症とそうでない人との差別をつくらない。 認知症の人はしせつに送るだけでは、しせつの人に限界もきてしまうし身近にいなければ認知症の人がいることや、存在を知らずに学ぼうという意思が分からなくなってしまいうから。 こちらからいくら、認知症の知識を教えても本人たちが学ぼうとする意思がなければ意味がないし身につかない。</p>
<p>まず認知症は正しく理解できないと思う。 メカニズムや発症パターンや治療方法を発見したとて、その人の気持ちなど分かったつもりでも分からないから。 正しく理解できない。</p>
<p>インターネット上に埼玉県が認知症にどの程度知っているかというアンケートをしていました。 その結果を見るとある程度は知っているがあまりにも多いという現状がわかりました。 このことから埼玉県の政策として認知症についてのチラシを各家庭に配布したり月に1回の認知症セミナーを開催してさいたま市の多くの人が認知症についてよく知っているといえる県にすることが良いと思う。 またふだんあまり認知症の人の交流がないため認知症の人を相手にどうすればいいかなどの交流会をやってみるのも良いと思う。 また埼玉県は34万人の認知症の人がいるので他の都道府県よりも多くの政策をする方が良いと思う。</p>
<p>認知症の方が家族にいる人たちのストレスがたまらないように、定期的にカウンセリングを行う。 認知症とは何かを正しく理解するために小学校や中学校の道徳などの授業の中に認知症についての内容の授業を取り入れる。 その人が認知症かどうか分かりやすくするために、バッチャやキーホルダーのような周りから分かりやすい印のようなものを作る。⇒周りの人が認知症の人を手助けしやすくなる。</p>
<p>認知症になるのは年を取った人という考え方が社会の考え方ということが今もまだあるように感じます。 今は若い人でも認知症になるといことがあまり知れ渡ってないと思います。 だからオレンジリングなどを使って認知症のことをよくわかっていない人は「なんだこれは！」ってなってしまうとおもいます。 だから認知症のことを説明するポスターをつくらたりなどの対応が必要だと思いました。 あとは認知症の方は自分が認知症だとわかっていないケースや認知症だからと自分でわかることを人に「わからないだろうから」と言われてしまいイライラしてしまったりしてしまうことがあると思います。 だから認知症の方の意見もきいて考えた方がいいと思います。</p>
<p>認知症について誤解、偏見が生じないようにするために、それは誰でもなりうることであり、認知症の人を「正常でない」「厄介」「障害」といった一言で片付けないように教育の一つにとり入れるといいと思う。</p>
<p>認知症に対する先入観をなくし一般人と同じ扱いをするにより認知症とその他の人々の関係が丸く収まっていいと思う。 また認知症の人同士で集まる集會などがあれば認知症の人たちだけの悩みを打ち明けられて良いと思う。</p>

提案内容

正しく理解するためにはプリントにして配ったり認知症の人と1対1で話をする機会を設けたり認知症の人は決して少なくないということを動画を投稿できるSNSなどにとうこうしたりする

ショッピングモールや学校などで認知症のくわしいことや認知症の人に対しての心構えなどの講座を開く。
老人ホームなどに行って実際に半日認知症の人のお世話をする。
そうすることで家族がとつぜん認知症になってもある程度はお世話できると思う。

- ・認知症についてのポスターを作成し市役所に掲示する。
- ・自分で「認知症」だと分かっている人に直接話を聞く。
- ・認知症についての授業を学校で設ける。
- ・認知症の人やその周りに人に困っていることを聞きそのことをポスターにまとめ掲示し解決策を考える。
- ・認知症の人の世話が大変なので近所の人が買い物に行ったりとできることをする。

授業で認知症について学んだり実際に認知症の人やかいごしている人などに直接話をしてもらい、まだ自分も認知症について理解していなかったり、偏見もあつたりするのでそういった場で認知症について理解を深めることもいいと思う。
また認知症について、パンフレットをくばったり、ポスターをはったりし（公共の場たとえば、駅など多くの人の目にとまる場所には）地域全体で認知症を理解する。

認知症を理解するためにパンフレットやポスターを作り店などで配る。
小中学校で認知症のことを調べ紙にまとめる→自然と認知症という病を学び身に付けることができる。
実際に認知症の人を介護している人に話を聞く時間を学校で設ける。→認知症の人に来てもらうよりその人を介護している人に聞く方が色々なことを聞くことができ理解が深まる。

ショッピングモールや市役所など人の集まりやすい場所で認知症のことを知れる講座などを開催する。
小中学校などで特別授業などをおこない認知症について小さいうちから知ってもらう。
図書館などでそういう系のコーナーをつくり多くの人に知ってもらう。
電車の中や学校会社など人目のつく場所に心に響きそうな感じのポスターなどはる。
自然とみてくれるようにテレビのCMや動画を投稿できるSNSの広告などで流し若い人にも知ってもらう。

行方不明者の情報を市などがスピーカーやメールなどで伝えたりする。
1人1人が認知症の人々を見守ったり声をかけたりする。
認知症のおそれがある人にステッカーなどはる。

実際に認知症の人の話、認知症の人の話を聞く。
信用するメディア（新聞、ラジオ、テレビ）などの情報をたくさん集め信用できる知識を取る

身近な認知症の人の様子を知る。

Newsに番組入れたりテレビのCMをやる

認知症の人が過ごせるしせつをつくる。
交流の場をつくる。
学校中でのボランティア活動など今の若い子に認知症への理解をしてもらう。

認知症がどのようなものか説明したポスターをはる。
正しいしきを病院などがつたえるようにする（サイトなどで）。

認知症の人のまわりの人たちが、認知症というものを理解し、ほかの人たちにも伝え、理解してもらえれば良いと思います。
地域の人たちにも誤解や偏見をなくするために、認知症というものを知ることができる場所を作り、理解することで、地域で応援することができると思います。

認知症とはなんなのか知るイベントや認知症の方を呼んで、講演会を開く。
認知症の人達だけの体育イベントを開き、認知症だって運動できる！何もできないわけじゃない！ということを知ってもらう。
誰もがなる病なので小学校・中学校の頃から認知症とはなんなのか知る時間をつくり偏見をなくす機会をつくる。

認知症を知るための講座を用意して認知症の理解を深めてもらう。
税や薬物乱用防止の講座をやるように認知症についてくわしい人からお話をきける機会を設ける。

認知症専門家に診断されている人達が通う開業医の病院のHPを見て認知症について正しい理解をする。
大きな大学病院の高齢者を見る科のHPでも良いとは思いますが昔から続いている開業医の病院（認知症）のHPを現代の若者に見せた方が良いと思う。
病院によってはブログを書いたりする病院がある。

認知症の方と交流をする。

義務教育で伝える。

皆が参加できるような講習を開いたらいいと思います。

認知症のことをしっかりと知る。以上。

認知症の人をしるために認知症の人などといっしょにすごせる環境をつくる。

自主的に認知症について調べる。
レポートやポスターなどを作成し家族や友達をはじめ地域の集まりなどで発表する。
実際に認知症の方やその家族にあって認知症とはどのようなものなのか話を聞く。

認知症についての説明会を開く。

認知症についてしっかりと知る。

認知症についての講座を開く

認知症の人が増えていてこれからも増え続ける今、認知症の人のことをよくしるために認知症の人をかいてくれている人の話をきけるような場をつくったり、学校等でそのような機会をもうける必要があると思う。
認知症のことを知らないことでは認知症の人やその家族を地域で応援することもできない。
そのため、認知症のことをよく知る機会をつくり、まず認知症のことを正しく理解することで認知症の人やその家族を地域で応援することができると思う。
その上で認知症の人の家族等とかかわり、どうしたら応援できるのかを考えるべきだと思う。

認知症についてパンフレットを使ったりSNSで広める。
特に認知症のこととは無縁な10代・20代・30代などを対象に広める。
また説明会なども開く。

SNSを通じて認知症に関する知識を発信したり教育機関での内容に認知症に対する知識を教えることを追加し介護施設での職場体験を積極的に実施し実際に体験できるようにする

学校で認知症の人を支える人々の話をきいたりSNSなどを通じて正しい知識を発信することで若い人の認知症への理解も深めることができるようにする。

提案内容

<p>認知症のことについてパンフレットやSNSを通じて伝える。 認知症についての説明会をひらく。 電車の告知らんに認知症の人への対応を訴える。</p>
<p>学校などで道徳の授業の時間を用いて認知症の学習をし、認知症と認知症の人々についての理解を深める。 また定期的に市や県が会社、学校などが参加できる認知症についての説明会のようなものを開く。 それらの活動を行った上で認知症の人々への支援を自ら考え市民や県民の意見を自治体として取り入れていくようにする。 例として高齢者が行きやすい場所に標識や地図をたくさん設置し道を分かりやすくする。 地域の人々に呼びかけて認知症の人々を助けるよう呼びかけるなどの方法があると思う。</p>
<p>認知症に関する本を読み認知症の人たちが日々どのようなことを思っているのかを理解し認知症に関する誤解や偏見をなくすように埼玉県民に呼びかける。 また認知症に関する講座をできるだけ多く受けてもらう。 埼玉県庁などで認知症に関するイベントなどを開きそれを若者に参加してもらえよう若者の心に響くポスターやCMなどを用意する。</p>
<p>市役所の方や認知症専門家の方々にさいたま市の小・中学校や会社に来て頂き、認知症がどのようなものなのか説明をしてもらう。</p>
<p>認知症を正しく理解するために市で認知症についての説明会や学校の特別授業などによって認知症への理解度を高める。 そして認知症の人が過こしやすいように分かりやすい地図・マークを作って応援する。</p>
<p>認知症の人と一緒に暮らす体験をし認知症の人との関わりを知りたくさんの人に分かってもらえるようにする。 認知症の人が一人で出ていってしまったときに備えてGPSをつける。</p>
<p>認知の人たちの感覚を体験、知ることができるところをつくる。 子どもから参加でき興味をもつようなキャンペーンを実施し自発的に学んでもらう。</p>
<p>認知症の方の心理や行動の原因に関する本を読み、実際に自分だったらということを考えてみる。 認知症の人に直接、何を忘れていたのか、何を覚えていたのか聞いてみる。 認知症の人とふれあう機会をつくり偏見や誤解をなくす。 認知症の人と同居している家族の方からもお話をうかがい、学校等で特別授業を開き全ての人々が理解できるようにするべきだと思う。</p>
<p>学校で認知症について考える授業を行い知識を身に付ける。 そして認知症の人と関わる機会を作りもっと認知症について知り認知症を正しく理解する。</p>
<p>認知症について知るための座学の講座を保健体育の授業で取り入れたり市役所の方が特別授業をしに来たりする。 座学だけでなく仮想空間のバーチャルやあえて知らない単語を多く使って会話してみるなどの体験学習を取り入れたりする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を小・中学校の生徒向けに説明する→学校に役所や保健所の方が訪問するなど ・テレビの広告を増やす→テレビに認知症に関する広告を作って流す ・認知症の理解度を調べるアンケートをもとにどうすればよいか考える ・学校などに提案のアンケートを出すよりも医療従事者など知識を持って人に向けてアンケートを出した方がより現実的かつ効果的な案を集められると思う。
<p>認知症についての講座を開きみんなが認知症について知りそれを受け入れることができる社会を作って行くべきだと思う。</p>
<p>単に認知症を理解する講座を開いたとして参加しようと思ってくれる人はそう多くないと思う。 認知症は当事者のみならずすべての人が知る必要があると思うので学校や職場に認知症について知ることのできる機会を組み込む（強制参加）と効果的だと思う。 そして講座の内容について知識を取り入れる座学と実際に認知症の人の状態を体験する（VRなど）ことの両方が大事だと思う。 これらの取り組みで認知症に対する関心、知識はだいぶ深まると思う。</p>
<p>私は小学校の頃認知症についての講座を受けその事柄についての資格をとったことがある。 認知症は結局悪化してしまう病気、治らない病気だと思われがちだが「何でこんなこともできないの！」などのように認知症患者を非難するようなことを言ってしまうと進行が速くなるが「大丈夫だよがんばろう」のようにプラスの声掛けをすると進行が遅くなるどころか初期なら回復することもある。 このように認知症についてホームページなどで発信するだけでなく認知症患者に正しい対処法を教えたり学校の行事に専門家をまねくことでみんなが認知症を正しく理解できるだろう。</p>
<p>学校での学習の一環として「認知症サポーター養成講座」や「老人ホームでの会議」の様子を見学するなどの校外学習を推奨する。 自治体の集まりの時に認知症についての講座を開き家に帰った後で家族に伝えてもらうなど。</p>
<p>老いによる認知能力の低下を若い世代（僕らも）に理解してもらうために完全におちきる前の段階で子供とのふれあい活動を行うことを提案します。 なぜかという以前僕の祖父がすこしボケてしまったときに多くの知り合いをおもいだすこと、経験について思い出すのにも時間がかかっていました。 しかし僕や家族とともに旅行にいったなつかしい思い出をとて鮮明に思い出すことができていました。 このように人々、心に深く刻まれた思い出は忘れません。 なので人のやさしさにふれるけいけんをすれば誰にでもやさしくする心を忘れないと思います。</p>
<p>認知症についての理解がないと周りからの誤解をうむことがある。 認知症の人が犯罪を起こして、裁判での冤罪も防がないといけない。 ですから、認知症を正しく理解することが必要であると私は思う。 正しく理解するために日頃から小中学校で介護士やケアマネージャーが学校に来てみんなに話す会を開いたり、義務教育の一環としてみんなに知ってもらうべきだ。 また国の政府や市の市長なども認知症の人がいる家に給付金を配ったり、経済的な面から援助した方がよい。 これからますます高齢化していく日本社会で、認知症患者もふえていくことが予想される。 今から認知症をどういうものか子どもたちが知り、偏見のない社会にした方がよりよく過ごせると思う。</p>
<p>認知症は最近よく耳にするが祖父母や親せきなどが認知症の方がいないと分からないことが多いと思う。 なので認知症について知る機会や実際に接することも必要だと思う。 認知症になった方の家族は心配だし症状が重いと自分の名前を忘れられたり伝わらないことも多くつらいし大変だ。 しかし当人が一番つらいことを忘れないことも大切だと思う。 皆が言う思い出を思い出せなかったり大切な人のことを忘れてしまうのはつらいと思うし自分を追い詰めてしまうこともあるからだ。 その思いを親など家族にさせないためにも認知症予防などの方法を発信する必要性もある</p>
<p>さいたま市の各学校で認知症についての授業をさいたま市の議員や専門の人や認知症の方の介護をしている人たちに実際に学校に行き行ってもらう。 ポスターを作成して、学校や公共施設にはる。 認知症の方々の介護の仕事体験を募集する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市の公式ホームページに認知症の方が住みやすくするための手段等を掲載する。 ・市役所にそういったポスターの掲示→より多くの意見が集められる。 ・家庭を無作為に抽出し認知症の方に金銭的援助をする。

提案内容

認知症の人やその家族を地域で応援するためにはたくさんの人に認知症を正しく理解してもらう必要があると考えました。
 まず「認知症サポーター養成講座」に行く人を増やすためにこれらのポスターを作成したくさんの人が訪れるであろうコンビニやバスなどで貼って欲しいです。
 そうすれば「認知症サポーター養成講座」に足を運んでくれる人が少しでも増えるかもしれません。
 認知症は何もできないわけじゃないと知る人も増やしていきたいです。

まず認知症に関する知識をさまざまな方面に広げることが重要だと思う。
 例えば、積極的に広告を出して認知症の知識を紹介したり、これから社会を担う若者にも親しみやすいように、その時代の流行に合わせて広告を出していくなどがあると思う。
 また、広告以外でも認知症の人にも考慮されたバリアフリーのデザインを普及させて、介護者の負担を減らしたり、介護者への支援または養成などを行うことで状況が改善されるのではないかなと思う。
 さらに、介護者だけでなく、一般人にも認知症に関する講座を行うことで地域全体の関心を高め、正しい理解を得ると同時に認知症の人やその家族を応援することができると思う。

認知症を正しく理解するためにはテレビのCMを使ったり動画を投稿できるSNSなどのメディアを用いて認知症についてせつめいすればいろいろな人が認知症を正しく理解してくれると思います。

認知症を正しく理解するためにはまず病気は原因なく突然起きるものではないということ、よって認知症も起きる原因やメカニズムがあると考えることが大切だと思います。
 そして次に認知症が起きるメカニズムについて研究されている最新の文献や認知症が本人に与える影響を正しく理解することで認知症に対する思い込みをできるだけ減らすこと、例えば認知症になった人が思考能力を失ったり感情がなくなったりしたわけではないのでできるだけ易しく会話してあげればよいということなどをしっかり分かることが重要です。
 そして最後に認知症について正しく知識を持つ人たちがそれを持たない人々に伝えること、教えてあげることができれば皆が正しい知識を持てるとうっしは思うのです。

認知症は年をとるとなってしまうことが多いので私の曾祖母も認知症になってしまっています。
 認知症は人々の身近な病気なので今後わたしたちは認知症に人への偏見や先入観をなくしたり変えたりしないといけないと思います。
 わたしたちも大人になったら認知症になってしまうかもしれません。
 認知症になってしまっている人は自分が認知症になってしまっているかわからないし自分が好きで認知症になってしまっているわけではないのです。
 もし自分の家族が認知症になってしまい自分のことを忘れられてしまったらその家族を責めてしまうかもしれません。
 でもその人自身は好きでやっているわけでもないしその人は責められてしまったらもっと自分を責めてしまうので責めてしまいそうになった時にまわりの人と相談できるような気軽に相談できる場所をつくって環境を整えれば良いと思います。

認知症である人々との交流会を開き認知症の大変さや不便さなどのデメリットを教えてもらう。
 交流会を開くことができない場合には公立または私立の小中高等学校に特別授業として話をしてもらう。
 さいたま市にいる認知症にかかった人々に寄付をする。
 口で物事をつたえるのではなくメモやふせんに物事を書いて伝え易く接し道案内などで手助けをする。
 判断が鈍っているので何度も大きな声で繰り返し語りかける。
 認知症のためのバリアフリー化やユニバーサルデザインを進める。

まずなぜ認知症になるのかを知った方がいいと思う。
 毎日同じ行動をしているとよりやすくなるため土日だけでも色々な所に出かけるなどした方がいい。
 そのため市で大人（仕事をしている人）向けのみんなでお出かけをするもよおしをした方がいいと思う。
 それでも認知症になってしまうのであれば仕方がないことなので学校の授業（義務教育内）で認知症について学ぶ機会を与えてほしい。
 そうすれば必然的にみんなが認知症について知っていることになると思う。

学校の授業で認知症の人を支える人やその家族などと呼んで出前授業という形で認知症がどのようなものであるかや日常で困ることなどを説明してもらう。
 電車やバスの広告、ポスターなどを利用して認知症について伝える。
 認知症についての講座を開き来てくれた人にはオリジナルグッズや何か日常で使える便利品などの特典を用意する。
 認知症の人と話す機会を作って実際にどのようなものかを体験してもらう。

まずより多くの人々が認知症を正しく理解するために義務教育の過程で認知症についての講義を行って生徒に認知症を正しく理解させ定期的に認知症の講義を行ってより多くの人々が認知症を正しく理解できるようにしたら良いと思います。

僕は、認知症の方の体験をまとめたパンフレットを作成し、市の小学校や中学校で配布するべきだと思います。
 理由としては実際の声を聞かないと身の回り認知症の方がいたとしても適切な対応をとることができないと思うからです。
 また、認知症の方が家族に居て介護を行う際に介護を行う人が仕事をしている場合、仕事と介護の両立が難しく悩みが多くなることもあると思います。
 そのような事例に対応するために気軽に認知症の方を介護して困ったことなどを相談できる項目を市のホームページに導入してみるといいのではないかなと思いました。

認知症を正しく理解するためには、認知症の人を自分の身近な人においておけば良いと僕は考える。
 理由としては、
 ・認知症の人がいれば必然的に介護が必要になりふれ合う機会が多くなる。
 ・認知症の介護の経験を伝えることが出来る人が増えるというものである。
 人は何事も経験せねば真に理解ができないので介護センターに任せきりでは一般人が認知症を理解するのは無理だという考えである。

小・中学校で認知症の存在やその症状を教えるだけでなく実際に認知症にかかった人がどんな暮らしをしているかやどんな行動をしようのか教えるようになる。
 認知症の人は物をすぐに忘れてしまうから障害者だという偏見は捨てる。

認知症というものには知能が低下し物忘れなどが多くなる病気ですが若者などでは言葉を知っていても意味を知らない人が多いので認知症が何なのかについてのポスターを作成する必要があると思います。
 またポスターだけではなく認知症について知ることができるホームページをつくりそれによって認知症について学べる「認知症サポーター養成講座」の参加について呼びかけてみると良いと思います。
 認知症は年をとるにつれてなりやすくなり身近な病気の一つなので地域の人たちと交流の場を作るべきだと思います。
 交流によって地域の人たちの偏見や誤解が変わり認知症について正しく理解し、認知症の人たちが住みやすいまちになると思います。

認知症についての冊子（絵本でも可）を無料で配布する。

認知症についての紙を作って学校で配布したり家のポストに入れたりするポスターを作って貼る。
 テレビでやる。

提案内容

認知症についてあまりよく知らない人は若い世代に多いので小学生・中学生そして高校生に興味・関心を持たせるために認知症に関する教材を作成するべきだと思います。
若い世代の人が認知症について知り理解すれば認知症の人がより生活しやすくなると思います。
また大人の人に向けてはポスターを掲載したりパンフレットを配布したりしてもっといろいろな人に認知症について深く知らせることが重要だと思います。
認知症の人が居心地よく日常生活をおくれるようにこれらの方法で多くの人に知ってもらいたいと思います。

- ・小学校や中学校・高校などで認知症に対する理解を深める講座をする。
- ・ショッピングモールとコラボして認知症についてのクイズラリーなどを行う。その際に初級や上級など難易度を変えれば子供から大人まで楽しめるものになっていくと思う。

認知症というものが何なのかを理解させるために市の学校に専用の教師が来て生徒に教えたりキャンペーンを実施して認知症について興味を持たせ自ら学ばせるようにしたりすると良いと思います。
また市のHPなどに認知症について学べるようなサイトのURLを書くのも良いと思います。
市内に認知症について学ぶのを促進させたり市役所の周りに認知症について学べるサイトの2次元コードのある旗などを置いてみるのも良いと思います。

VR等を活用して認知症の方の視点を体験するイベントを行う。

認知症を正しく理解するためには、認知症の人と会話してみたり、触れ合うことが大切だと思います。
そのためにまずは認知症について、子どもでも簡単に理解できるようなパンフレットなどの小冊子を作成し、誰でも気軽に手に取れる場所におくことで皆が正しく理解できると思います。
さらにパンフレットの色合いやデザインなどを工夫するののも一つのアイデアだと思います。

自分は埼玉県住みではないのであまり詳しいことは言えないが、さいたま市全体で認知症に対する理解を深めてもらうように啓発活動を行う。
また、市のホームページにオレンジリングや認知症サポーターに関する特設サイトなどへのリンクをはっておく。
そうすることで、さいたま市のホームページに来た人が（分からないけどバナーのポップアップ表示などで）さいたま市が市全体をあげて認知症への理解を深めようとしていることを周囲の人にも分かってもらえる。

- ・認知症の人が、自分の家族のことを忘れていたりした時、家族はとても悲しくなったり、介護を頑張っているのに結果は自分の努力は報われないと考えると辛くなってしまったりしないように、家族の心のケアをできるカウンセラーを病院に設置する。
- ・認知症になった人に対しても、強く厳しく当たるのではなく、昔の思い出(?)など楽しかったことを思い出させてあげるなど、とにかく優しく接せる環境をつくる。
- ・病院にインタビューしに行く機会を設けてもらう。
- ・認知症のくわしいことを授業形式（リモート）で学校と連携して行う。

実際に身内に認知症の人がいる人の話を聞く。
その人との交流のきかいを増やす。

老人ホームの人達などが、学校などに認知症についてのポスターか、ちらしなどを作ったりして、身近なエピソードを紹介すれば正しく理解できると思います。

- ・ポスターの掲示
- ・マスコットキャラクターをつくる
- ・実際に認知症の家族がいる（認知症とかかわりの深い）人から認知症について聞いたものをwebページに掲載する。

認知症の人やその家族と関わり認知症のことについて話したりして認知症について知る機会をつくる。
学校ごとに認知症の方を招き話し合う機会を作ったり講義してもらって積極的に認知症について触れる機会をつくる。

小学校などに地域の認知症の方々を呼んで話し合う機会をもうけた方がいいと思います。
なぜなら小さい頃からそういう人々と触れ合うことで「認知症」を身近に感じる事ができどういう接し方をしたら良いのかや「こうすることで認知症の方々はもっと暮らしやすくなるのでは」と考えることができるからです。
またその後生徒たちが話し合ったことをポスターや新聞にまとめたりして、町の掲示板などにはったりすると良いと思います。
そうすることでほかの人も「認知症」について理解できるし、認知症の方々やその家族を手伝ったりすることができるからです。

マトニティマークみたいな認知症マークをつくりはいろをするように広める。

中学生や高校生を対象に認知症についてよく知ってもらうために中学や高校に実際におとすれてそこで講演会をする。
そうすることで将来的に認知症患者の人数が増えたとしても正しい理解の元、適切な行動がとれる人が増え認知症の正しい理解が広まると思ったため。

老人ホームに行って実際に世話をする。
老人ホームや病院などで働いている人達の講演会をひらく。
小学校などでも認知症の授業をする。

認知症を発症した人と会話をしたり一緒に暮らししたりするゲームのようなスマホアプリを作り中学生や高校生に向けて学校でそのアプリを体験する機会をもうける。
実際に認知症の人やそのお世話をしていた人と話すよりも実感が湧きやすく身近なものになると思う。
認知症の人、老人などと一緒に暮らすための家をつくったりメモを家中にはったりする。
突然いなくなってしまうのをイベントとして設定する。

実際に認知症の人がいる家族や介護している人に協力してもらい認知症によっておこることや普段の生活の様子を伝える講演会を開く。

認知症の人がいる家庭に協力してもらい認知症の人の暮らしを撮ってネットに配信・学校の授業で流してもらう。
先生たちが認知症がテーマの劇をする。
認知症サポーター養成講座などなんの対策をしているかをどんどん発信していく。
テレビで紹介してもらう。

- ・老人が一人で歩いていたら積極的に声をかける
- ・若年層に知ってもらうため有名なSNSのインフルエンサーなどとコラボして紹介する。

認知症の人には身につけているバッグなどに目印となるものをつけてもらう。→認知症であることをわかってもらうため。

認知症を知ってもらうイベントを開催する。
認知症についてのポスターなどをつくる。
認知症の現状を紹介したり例を挙げて身近に感じてもらう。

認知症になりやすい人とその家族に認知症についての講演会を開く。
また、お年寄りなどの視聴率が高い番組などでそれについてのCMを多く流して、行く機会を作ってもらおうようにする。
若い人にもスマホの広告などに多く出せばいいと思った。
ポスターなどは、かなり大きくないとあまり注目しないと思う。

提案内容

<p>いろいろなメディアで認知症についての広告を流す。 認知症のことだけでなく認知症にならないですむ方法なども認知症サポーター講座で教える。 保健の授業で詳しく扱う。</p>
<p>認知症から見た日常、みたいなものをマンガや絵をいれて読みやすくした本や、動画を出して広告にしたりして広めれば多くの人に知ってもらえると思う。</p>
<p>僕は認知症を正しく理解するために2つのことを提案したいと思います。 まず1つ目は学校や地域の人が集まる場所などで認知症がどのようなものなのかを正しく説明することだと思います。 そうすれば認知症を間違えて理解していた人達にも理解しなおしてもらえと思うからです。 もう1つは認知症の人達と話し合える場を作ることだと思います。 認知症の人達とふれあう場ができれば認知症になっている人がどのような人なのか知って、これから認知症の人達とどのようにふれあえばいいか知ることができると思ったからです。</p>
<p>身近に認知症の人がいないと認知症の人やその家族がどれだけ辛い思いをしているか分からないので、認知症についての講義を認知症の人の家族の方が開くなどして若い人達の知識を増やす。 町の中に認知症らしき人が1人でいらいら歩いたときに対応することができる！</p>
<p>学校での特別授業として認知症等の病気について触れる。 もし身近な人が認知症になったら…や原因、症状、認知症の方との触れ合い方などを講演・認知症を題材にした創作物をつくる！（ドラマや小説） 作文等を学生から募集する。</p>
<p>インターネットによる症状の紹介や小学校と認知症の方をふれ合い。 VTRによる認知症の不便さをしてもらう。</p>
<p>小中学校に認知症に詳しい人が行って授業（みたいな）をする。 認知症の人が家族に居るとかもよさそう。←認知症の人を助けてる人にしかその大変さが分からないから →大変さを知ってもらう機会にもなる。将来的にその人（小中学生）の親戚の人が認知症になってしまったときにも役に立つと思う。</p>
<p>認知症の人をあずかっているしせつの人のお話を聞く場をもうける。 認知症をだいざいとした歌（認知症になるとどう変わってしまうの）やアニメーションを作ってそれを配信する→建物についてるモニターに流す。</p>
<p>学校で認知症についての講座を実施し認知症について正しい知識を身につけることができるようにしたら良いと思う。 多くの人々に知ってもらえるようなコンテンツを利用して情報を共有する。</p>
<p>ニュースや新聞だと認知症の事実が改変されて報道されそう。 なので高齢者施設に市職員等が直接赴き、認知症の人から直接話を聞きどうしてほしいか等を聞く。 →市HPやSNSに上げて理解を深めるよう呼びかける。</p>
<p>認知症についての講演をひらく。 認知症をたいけんしてもらう（じっさいに）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSやホームページなどで認知症の説明や正しく理解するための広報活動をする ・ 認知症について正しく理解してもらい、誤解や偏見をなくすための講座やイベントを開く。
<p>さいたま市のホームページや、SNSに実際の認知症の人の体験を掲載して、認知症でない人に認知症の人の思考を知ってもらうことで認知症について正しく理解することに近づく。</p>
<p>認知症のことについて詳しく説明する場を設ける。 医療従事者の方や実際に家族に認知症の方がいる方にお話をしてもらう。 学校などに行って話を聞いてもらう。 SNSを利用して誤解や偏見を無くすための情報を幅広い世代の人に見てもらう。 SNSなどを使って拡散してもらう。</p>
<p>学校から配られるパソコンに認知症についてのデジタル漫画を送って、読んでもらったらいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症とはどういうものかを、幼稚園や保育園で教える。 ・ 自治体が認知症について定期的に説明会をひらく。 ・ 認知症の人とその他の人との交流の場をつくる。 ・ 認知症の人が独自に事業を行おうとしている場合に援助する。
<p>学校で年数回の講演を行ったり、実際に認知症になっている人やその介護をしている人との交流の場を作ったりする。 リアル動画やショート動画をあげる。 日常てきな</p>
<p>SNSを使ってたくさんの人が認知症について正しく理解できるようなページ、記事をつくる。</p>
<p>認知症についてのポスターをつくったり、SNSを利用するなどして広める。</p>
<p>認知症を正しく理解するためには、SNSなどを通して認知症の人はどんな感覚なのかといった情報を伝えていくことが大事だと思います。 また、自分が認知症になった時の感覚を体験できる場を設けると良いと思います。</p>
<p>認知症の人や認知症の人の家族の方から話を聞き、認知症についての説明をするときに一緒に伝える。 SNSを利用する。認知症サポーター養成講座の募集する。認知症について情報を発信する。</p>
<p>認知症についての説明会等を開催する。 地域で交流会などを開き、認知症対策をする。 SNSなどで認知症についての情報をのせる。→対処法や認知症への偏見をなくすような情報。</p>
<p>認知症の人たちやその家族にインタビューを行いSNSでの広告にインタビュー動画をのせさまざまな人に認知症の人やその家族のくろうをしてもらえるようにする。</p>
<p>認知症はどのようなものなのかを知ってもらうために、子ども向けだったら授業を開いたり、大人向けだったら、ポスターなどをはって少しでも多くの人が理解できるようにする。 また、ポスターを見る機会が減っている場合もあるから、多くの人が見るようなインターネットで呼びかけたり、説明動画をSNSなどにあげてみる。</p>
<p>実際に認知症の方と接してどのような症状が出るのか体感してみる。 それをSNSなどで共有したり広めたりして、多くの人に知ってもらう。</p>
<p>認知症について正しく知ってもらうためには、小中学校の道徳の授業などで認知症の人へどうすればよいか考える時間をつくったり、地域で認知症についての講座を開いたりする。 大人にも知ってもらうためにSNSを使って、講座を開いていることを呼びかけ、また、その場で認知症について伝えるようにする。</p>
<p>認知症を示すキーホルダーなどをつくる（目立っていて、大きいもの）そして配る。 学校でもそのことについて教える。理解してもらう。</p>
<p>認知症にかんする広告をテレビなどで流す。</p>
<p>認知症を持っている人の知り合いに聞いて、友達や近所の人々に教える。</p>

提案内容

<p>国と一体となって認知症に関する発表や講演会などを開いて理解を深めていってほしいと思う。 また、認知症に関する相談所を増設したり、認知症の方のいるご家族に認知症専門の介護者などが訪問するのもいいと思いました。</p>
<p>老人ホームに入ってみる 介護施設をつくり、そこで小学生、中学生などと呼んで介護の体験をしてもらい、認知症の人と接する機会をつくる。</p>
<p>本人やご家族に話しを聞くことで実情を理解してもらう。 学校の授業等で認知症について取り上げたりして正しく理解したり、実際に認知症の方がいらっしゃる施設を訪問したりすれば良いと思う。</p>
<p>タレント事務所とコラボしましょう。 タレント達は悪くありません。 ファンが多いので良いと思います。</p>
<p>わざわざサイトを開かせないで目につくようにする。(SNSやポスター) 学校で認知症についての講義をやる。 ポスターをつくる。</p>
<p>広報活動などを行って、認知症に関する情報を広く伝えることが正しく理解することにつながっていくと考えます。 たとえば土地を有効活用した認知症に関する施設や、もともとあるたてもののあまったスペースを利用したブースなどです。 また、市のホームページなどでの認知症に関するけいさいなどもあります。</p>
<p>認知症についてまとめてあるサイトを見て理解する。 保健室の教員に教えてもらう。 心理の問題なので、他人が理解するのは難しいかもしれないです。</p>
<p>認知症の人と普段から関わる(サポートする)学校の授業で習う。 ネットで調べたり、身近に認知症がいる人にじょうほうをさく 調べたり聞いたりしたことをレポートにまとめたり、発表したりする。</p>
<p>学校の授業で認知症について教える授業をする。 しかしそれだけではインパクトが小さくてすぐ忘れてしまうので授業以外にも認知症の人と関わる時間をもうける。 難しいかもしれないが、認知症の人に授業をしてもらうことで「認知症はこういうもの。」ではなく、「認知症になるとこんな風になる。」という 違った視点で認知症について正しく、深く知ることができる。</p>
<p>学校で認知症のじゅぎょうをする。 ・老人ホームなど認知症の高齢者がいるところを訪問し、認知症の方々と関わりを持てるようにする。 ・認知症について調べたり、ポスターを製作し、様々な人に見てもらったりする。</p>
<p>地域で認知症の体験を行い、認知症が正しく理解できるようにする。 また、正しい対処法を教える。</p>
<p>認知症を正しく理解するため、 ・小、中学生が身近に感じられるように、道徳の教科書に認知症の話を入れる ・ポスターをつくって、人が多く見る駅などに貼る ・動画を投稿できるSNSの広告に(さいたま市から、として)認知症について啓発する。 ・参加費無料の市民向けフェスティバルを開き、その1つのコーナーとして、認知症を知ってもらうコーナーをつくる</p>
<p>・身近に認知症の人がいないと子供でも大人でもよく知らないのでは、県や市で将来のための講座などをひらく ・子供にも身近なものに感じてもらうために、道徳の授業などで取り入れる。 ・ネット上の情報は信じきれないので、国・県などで分かりやすいwebページなどをつくる→公式SNSでアップする</p>
<p>認知症がどういうものかを知り、認知症は身近で、自分も、なるかもしれないということをわからせ、認知症の人が生きやすい社会を作っていく、 そのような、病気などで差別の生まれないようにする。</p>
<p>認知症の方とふれあえたり、話せるイベントをする。 認知症の特別教師を呼んで授業をもらって子どもに認知症の実態を教える 関係するホームページをひやす 認知症の公演を開かせる。</p>
<p>認知症になったときのデメリットを理解し、自分がならないようにする対策をする。 身近にいる認知症の人の手伝いなどをやる。</p>
<p>子供たちにも認知症を正しく理解してもらうために、学校で認知症と関係のある人に認知症について話をしてもらう機会をつくる。 中学生に対して認知症研究の専門家からの話を聞くことを義務化することで一般の人への理解を深めるのが良いと思う。 なぜなら認知症への理解がないのは大人より子供だと思うからです。 サイトを作っても見る人はほとんど居ないと思うのでサイトを作るよりも効率的だと思います。</p>
<p>認知症を広める、→サイトを作ったり、全国各地で公演をしたりする。 認知症の人の世話をやる。</p>
<p>定期的に公民館や学校などで講習会を開く。 SNSにあげて多くの人に見てもらおう。 ポスターを作成して色々な場所に貼る。</p>
<p>認知症を説明したHPをつくる 認知症の人の介護をしている人の集まりみたいなのをつくってメディアをつかって認知症の知名度を広める ・認知症のことをSNSなどにあげてバズらせる。 ・認知症の人の家族などが講演会を行う。 ・子供向けの本を出す。 ・授業で教える。</p>
<p>認知症に関する本を読み、正しく情報を理解する。 認知症についてのサイトをみる。</p>
<p>学校で認知症についての授業を年に1度程度行う。 認知症についてたくさん調べる。 関わる。</p>
<p>小学校・中学校・高校において、認知症やさまざまな病気を理解してもらうための授業をする。 その授業の中で、認知症の内容や認知症の方に対する接し方を教えてほしい。</p>
<p>学校でや家族などと認知症について話し合う機会をつくる。 学校などで、認知症について話す。</p>
<p>認知症をだいたいにしたアニメ、マンガを、テレビのコマーシャル、新聞の四コマ漫画などにのせるのがいいと思います。 また、子供たちにも見てもらうため、夏休みの読書感想文のおすすめに、認知症をだいたいにした本などを入れればいいと思います。</p>

提案内容

<p>しっかり学ぶ機会を設け、知ってもらおう。 メディアなど若者が目に入りやすい所にスポットを当ててみるなど。 子どもたちには認知症を学ぶ機会を必須でやる。</p>
<p>1については誤解や偏見を無くすために裏にも記載がある認知症サポーター講座の参加人数を増やすために参加してくれた人へのプレゼントなどがあるとより参加しなくなるイベントになり子供たちなどの若い層にも認知してくれると思います。</p>
<p>認知症をよりよく理解するためには、やはり小学校、中学校等の義務教育に必修課程として導入するべきだと思います。 子供の思想が発達する前から、認知症といったことを常識として学べば、未来は、より認知症等の患者を配りよできる福祉社会になっていくと思います。 もちろん、認知症だけでなく、それ以外のあまり人に知られてない症状も取り入れておくべきだと思います。</p>
<p>認知症はどのようなものなのだろうかと学校などで講演すれば良いと思います。 私は、小学校などで障害者が実際に来たり体験をしたことを今でも覚えてます。 それに、障害者にやさしくしようという気持ちも芽ばえました。 なので認知症についても学校で説明すればより理解が深まるのではないのでしょうか。 認知症について深く知れば、問題と向き合う人も増え、より問題解決へつながるのではないのでしょうか。</p>
<p>まず認知症について、認知症は、記憶、判断が低下する病気です。 正しく理解するためには、認知症について、小中学校で、講座を開いて、正しく理解してもらおうようにする。 認知症の事についての本やホームページなどをしっかりと見るようにする。</p>
<p>私は、常に周囲の事を気にかける事が大事だと思いました。 理由は、認知症を正しく理解できるようになるだけではなく、周りを冷静に見る事ができるようになり、周りにも「徳」しかないと思います。 自分もたまに周囲の事を気にかける事を忘れてしまう事もありますが、友達や家族など協力して、「常に冷静になる事」を心がけられるようにすれば良いと思います。 そして、それだけではなく、認知症の事を詳しく書いている本や、ホームページなどをよく読んで、理解しようとするのも大切だと思いました。 最後に、人は1人だけでは生きていく事はほぼ不可能です。 周りの人がいて、自分がいて成り立っている事を常に、意識しなくてはいけないと改めて今回の事で実感しました。</p>
<p>自治会で認知症を理解する講義をする。 地域で認知症を防止するレッスンを開く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の講座を開く ・認知症の人だと分かるようなバッジを作る ・認知症の大変さを伝える
<p>認知症をわずらっている人を介護している人や、認知症をわずらっている患者の治療を行っている医者の人に学校に行ってもらったり、オンラインで特別授業をしてもらえばいいと思います。 また、自分の周囲に常に気を使うことも大切だと思います。</p>
<p>認知症がどのような病気なのか、認知症の人はどのように感じているかを説明する。 認知症の方や認知症だった方々のお話を聞き、実際に認知症になった時の症状を教えてください。</p>
<p>認知症を知らない人がまだたくさんいると思うので、市で説明会などを開いて説明をする。 他にも、ポスターを作り、人通りの多い所に沢山設置しておけば、信号を持っている時などにポスターを目にして少し気に溜めてくれると思います。 他にも手紙などを使い、ポストに入れておけばより沢山の人が見てくれると思います。</p>
<p>認知症の人に認知症特別のマークを付けさせる。 老人ホームみたいに認知症ホームを作る。</p>
<p>小学校での説明する機会を増やす。 また認知症である人との関わりを増やし、日常の中で頭の隅にでも置いておくようにする。</p>
<p>認知症についてのわかりやすい動画や、本のようなものをつくり、配布する。</p>
<p>インターネットや本で認知症について調べて、詳しく知る。</p>
<p>ネットやしんぶんなどで認知症を知ってもらうための情報をけいさいする。 小学校や中学校で認知症についてのイベントをかいさいし、義務教育に認知症について知ることを組みこむ。 地域で定期的に認知症セミナーなどをかいさいする。 認知症について地域の人々に知ってもらい、認知症本人や家族がどれだけ大変で辛い生活をしているのか理解してもらう。</p>
<p>認知症とは何かを学校で教えてもらう機会があれば良いかと思います。 興味が無いことや、そもそも何か分からないものは自分で調べるようなこともしないと思うので。</p>
<p>認知症は、さまざまな病気により、認知機能が低下して、日常生活に不具合が生じる状態のことをいう。 今後、自分たちが関わっている家族や友人も認知症になることもある。 認知症になったことが世間に知られたくないという理由で、どうしてもそのことを隠してしまう家庭もいるらしい。 このようなことを失くし、認知症を正しく理解してもらうにあたって考えられることがある。 それは、認知症での起こることなどの演説会をひらくことだと思う。 認知症のことを演説で詳しく知ることによって認知症への見方が変わってくるのではないかと思う。</p>
<p>1年に1回小・中・校や大人に認知症を説明する会を開く ポスターを作る</p>
<p>表に書いてある講座自体、さいたま市に住んでいても知りませんでした。 市から発信しているのか知りませんが市民まで全く届いていません。 まずは市がそういう講座の発信の仕方を工夫したらどうですか。 さいたま市のホームページにのせたりしても市民、特に若い世代は全くみません。 SNSをつかうなど広い世代まで情報が届くようにすべきだと思います。</p>
<p>さいたま市の新聞やメディアに認知症に関する話題を取り入れたり、市のいたるところにポスターで知らせたりする。 また、小中学校など公立の義務教育の過程で講座や授業を行ったりする。</p>
<p>認知症の種類・認知症になる原因・認知症になった本人のその後の生活・またその家族はどのようなことをすればよいかなどを講座を開いて講義をしたらいいと思います。 また、現時点で認知症になっている人に会ってみることで、認知症になった際、どのようにすればよいかも事前知ることができる、と思います。 現代ではインターネットの需要が高まっているため、対面での講座（上記にあるような講座）ではなく、オンラインやSNSで配信する形で講座を行えば、若者も、知る機会が増え、認知症を正しく理解することができると思います。</p>

提案内容

市のSNSでサポーター養成講座など、認知症について学べる施設、講座についてせんでんすれば良いと思います。なぜなら身近なSNSを使ってせんでんすることによって、講座のことをより多くの人に知ってもらい参加する人が増えていくのではないかと思っただからです。

- ・認知症に関する講座などを増やして参加者を募集する
- ・チラシなどを作って貼る
- ・認知症などに効く薬を配る

小中学校で、認知症を知るための講座を年2回行う。認知症について詳しく書かれている本を読む。実際に地元の認知症の方と触れ合う機会を作る。ネットの情報ばかりを信じず、病院の公式サイトなどで認知症について知る。認知症の人にもできる仕事はたくさんあるので、認知症の人を雇う会社（仕事）を増やす。偏見を無くすためにテレビで認知症にかんする特集をする。認知症患者の偏見を無くすために、認知症患者のみでのスポーツ大会などを行う。

認知症サポーター養成講座の参加人数を増やすために、ポスターや放送などで認知症について知らない人や、家族に認知症の人がいる人などに呼びかけるとよいと思いました。そして、認知症に対する偏見などのせいで地域の助けが得られにくくなる場合があると聞いたことがあるので、それは、さいたま市の環境を変える必要があると僕は考えており、具体的にすると、今は認知症の人は何もできないという認識が認知症を知らない人にはあると思います。なのでこれからのためにも、小学校から認知症について学ぶ機会を増やしたり、先ほど書いた認知症サポーター養成講座を増やせば認知症に対して優しいまちになると思います。

- ・認知症の人の世界がどのようなものかを各地の学校などで講演する機会をもうける。
- ・認知症サポーター養成講座をもっと周囲に知ってもらえるよう、ポスターやポケットティッシュなどで宣伝する。
- ・若い人の目にもつこう、SNS関連の動画にアップしてもっと認知症のことを知ってもらえるような機会をふやす。
- ・あやまった情報が広まってしまわないよう、テレビなど公共の電波をつかって広めるようにする。
- ・市のホームページの2次元コードなどを飲食店など人の目にふれる場所に置いて、読み取ってもらえる機会をふやす。

・ゲーム内でバーチャル空間を作成し、メインのオブジェとして認知症の木を作成、そこに認知症の人々の声や意見などを書いてもらい、その声や意見を基に資料を作成し、年に何度かそのバーチャル空間を一般開放し、そこで認知症について知ってもらう。
 ・駅にけい示板を作成し、そこで『認知症サポーター養成講座』などのしょうかいをし、より多くの人に知ってもらう。また、そこに認知症について市で作成したwebサイトにとべる2次元コードをはり、認知症について知りやすくする。さらに養成講座では、期間ごとにテーマを変えて、楽しみながら理解してもらう。

小学校、中学校、高校の時から、授業の一部として小さいころから教えていくことが大切なのではないかと思えます。そうすることで、みんなが小さいころから共通の知識として理解することだってできますし、正しい知識を小さいころから理解することができれば、認知症を治すための考えなども今よりたくさんできてきて、より対策や治すことなども進むのではないのでしょうか。さらに認知症だけに限らず、がんなどの治すのが難しい病気や、人に理解されにくい病気なども授業で取りあげていくことで、より多くの人が医学に興味をもつきっかけとなり、そのような難病を治せるような技術も進歩していき、世の中には認知症に限らず多くの難病に苦しんでいる人がいることを授業などで早いうちからどんどんと広めていくことが大切なのではないかと思えます。

年に数回認知症の人とふれ合う機会を作ったり、認知症についての講義をしたりする。そうすれば子供や大人まで、様々な人々が認知症についての理解が深められると思った。また、認知症の人をサポートするために、定期的にサポーターの方が家庭訪問する制度を作った方が良いと思う。また、普段当事者をサポートしているのは家族であり、家族にも少なからずストレスや困り事があると思うので相談センターをつくる。そして、地域にもサポートしてもらうためにも、任意で認知症のステッカーを送り、げんかドアに貼ってもらう事で、周りの人のサポートを得られるようにする。そして、認知症の人に意見を聞き、どうすれば良いか聞く。

- ・町中にポスターをはる
- ・回覧板に正しく書く
- ・学校に専門の人や認知症の人を連れてきて話をする。
- ・認知症について書かれた紙と一緒にティッシュを渡す
- ・CMに流す
- ・こういった取り組みを学校以外でもやる。
- ・影響力のあるSNSのインフルエンサーや俳優がたえる。
- ・市の新聞にのせる

小学校などで理解してくれるような授業をとり、そこでこのテーマを考えた人が授業をする。認知症を知ってくれるような目立つポスターをつくる。動画を投稿できるSNSなど認知症について知ってもらえるような動画をつくり、とうこうする。テレビの子ども番組で認知症の大変さなどを知ってもらうように放送する。認知症の人の家も普通の人の家と同じように接する。認知症の人に対する偏見をもたない

認知症の人は何ができて、何ができないのかを知れるよう、直接話を聞いたりできるような機会を作るといいと思います。みんなが認知症を理解し偏見を持たないようにすれば、家族が周りの人に言いやすくなるし、協力も得られるようになると思います。協力を求められた側も、上手く対応できるように、どうすれば、認知症の人と話せば良いのかなども知れるといいのかなと思いました。

地域の人を集めて認知症の講座を開く。けいじ板や回覧板などに認知症についてのポスターをのせ、少しでも地域の人目に入るようにする。オレンジリングをしている人が交たいで認知症の人のサポートをする。できるだけ認知症の人を1人にしないようにする。認知症の人の家のガスを止め、火災を防ぐ。介護のロボットを作り、家族と手助けすることで、家族のふたんをへらす。地域全体で1つの家に住む。

若い人達は認知症について知る機会がないので道徳などの授業で認知症についての文章を読んだりして、少しでも知る機会を作るといいと思います。認知症について学べる「認知症サポーター養成講座」の参加をうながすポスターやちらしをはったり、配ったりするといいと思います。認知症の人やその家族が小学校や中学校、公民館などで、実体験など色んな話を実際に聴ける機会をつくり、その場で一緒に意見を出し合ったり考えたりできる場所や機会があるといいと思います。

提案内容

認知症をいろんな人に幅広く知ってもらうためには、まずその対象の興味を引くことが大事だと思います。私は、バーチャルインフルエンサーのグループ及び会社とコラボすることを提案します。これはSNS上で主に配信を行って活動するバーチャルインフルエンサーのグループです。様々な年齢層にファンがいるため、知名度がとても高く、海外で活躍する方もいます。他にもバーチャルインフルエンサーのグループ、会社（事務所）は存在しますが、中でも私は個人的に好きなグループがあるので、今回提案させていただきます。

具体的には、SNS上でPRを行うとよいと思います。認知症の問題点、理解されにくかったり、理解してほしい現状などを解説、広報してもらうといいと思います。このグループには、配信者それぞれの個人のチャンネルがありますが、このグループ自体のチャンネルもあります。そこでは配信者たちの茶番というか、ちょっとした劇のような動画やこのグループ全体でのイベントを予告する動画などがあがっています。ここでは前者のような動画に「認知症」というテーマを組みこんでPRをする。というのが具体的には一番良い方法だと私は考えます。是非、検討して下さい。

- ・認知症のことに関するポスターを作る
 - ・認知症サポーター養成講座の参加を呼びかける
 - ・認知症を身近なものであるということを教えるために学校で話しをする
 - ・バーチャルインフルエンサーのグループとコラボしてPRをしてもらう
- 以上のことを僕は提案します。

小学校や中学校などで、認知症について強制的に認知症について学べる機会をつくるを良いと思います。また、そこで実際に認知症の人の話を聞いたりすると良いと思います。さまざまな人に知ってもらうには、サラリーマンがたくさんいる電車に広告をつけると良いと思います。広告だったら、自然と目の中に入ってくると思います。その広告をきっかけに認知症について興味を持ち、「認知症サポーター養成講座」に参加してみようと思う人が増えるかもしれません。認知症サポーターの証のオレンジリングは、おそろくつける人が少ないと思うので、もっとつけたいと思えるものにしたほうが良いと思います。認知症について理解をする人が増えれば、ヘルプマークのように、認知症の人がつけるマークのようなものを作ると良いと思います。1番さまざまな人に知ってもらえ、予算も少なくてすむのは、SNSでの情報発信だと思います。SNSで認知症のことに、まんがを投こうすれば、小学生や中学生にも興味を持ってもらえると思います。また大人の人でもまんがが好きな人がたくさんいると思うので良いと思います。

世の中の認知症のイメージは、お年寄りになる、いろんなことを忘れていき、分からなくなってしまうというものが強いと思います。そのイメージを少しでも変えなければならないと思います。認知症になるとすぐに記憶や判断力が低下するのではなく、少しずつ進行していきってしまうものであるということ。お年寄りだけでなく若い人でもなる可能性があること。などをしっかり伝えていく必要があると思います。なので、私は学校や呼びかけを行うのがいいと思います。学校の授業を使い、認知症のことに正しい情報を学生に伝えることが大切だと思います。小学生では少し難しい内容かもしれませんが保健・体育の授業等を使い正しい情報を偏見なく伝えることで認知症がどのようなもので、身近にいた場合どのようにすればよいのかを知ることができると思います。子供に伝えることで大人にも伝えることができるかもしれません。より多くの人に知ってもらうには、チラシや市内放送による呼びかけをすることも良いのではないかと思います。なるべく多くの人に認知症のことを正しく知ってもらえるように学生や20~30代の若い人たちを中心に正しい情報をいろんなところで知る機会を作ると良いと思います。

認知症を正しく理解するには、病院などの認知症について詳しい人や、一度認知症を体験している人達を集めて、認知症について学ぶイベントなどを開いたり、学校の授業で認知症を知るための授業を行ったり、または認知症についての動画を作って地域の人に見てもらい、などがあると思います。

一回認知症の人と会う機会を作ったら良いと思います。そうすれば、実際に認知症にふれることができ、また学校のカリキュラムにも取り入れることができれば、本物を見ることが出来ます。また、認知症の人への接し方が分からない時やどう相手すればいいか分からない時のためにいつでも気軽に電話で聞けるコールセンターや相談室のようなものを設置すれば、問題やトラブルが起きた時なども対応することができ、認知症の人も安心して生活できると思います。

- 1について、学校の授業に導入する（認知症についての授業）
- ・テレビで認知症についてのニュースをつくる
 - ・新聞で認知症についての記事を1コマでもいいからつくる
 - ・ラジオで認知症についてのニュースをつくる
 - ・市で条例をつくる（認知症について）
 - ・国で法律をつくる（II）
 - ・認知症の保険金をつくる
 - ・国民の8割が知っているような有名人がテレビやSNSで認知症について語る
 - ・スポーツのユニフォームのスポンサーになる（認知症の薬を作っている会社など）

自分の血縁には、認知症の人がいないので、あまり認知症がどういふものなのか、かかるとどうなってしまうのかか曖昧なのですが、裏面を見ると、「今後、認知症の人と関わる機会が増えていきます。」と書いてあった為、今の内に認知症について深く知っておく必要があると思いました。認知症にかかるとは誰にでもあり得ることなので、決して馬鹿にしてはいけません。なので、2番目の選択肢と重なってはしましますが応援をするべきだと思います。また、難しいことではありますが、実際に認知症の方の話を聞く機会を作ることも良いのではないかと思います。これらのことが、「認知症を正しく理解する」に当てはまるのではないのでしょうか。個人的な意見ですが、少しでも方針作成の役に立てたら幸いです。

認知症は、偏見が多くて、たくさんの方が認知症を正しく理解していないので、正しく理解するために学校で認知症について教えたり、自分で調べ認知症への理解を深める。また認知症の人のマークをつけたり、バスや電車で認知症の人が乗りやすい環境を作る。認知症の方がいる家族に国や市から補助金を出し生活しやすいようにする。図書館などにどうやって介護すればいいのかの本を置いたりホームページを作り家族がいきなり認知症になっても困らないようにする。

認知症について学べる特別な講座に行って話を聞きに行くのは正直面倒なので講座にわざわざ行く必要がなく、色々な人が見ることの出来るインターネットで認知症について学べるような動画を出したら良いと思う。動画を投稿できるSNSなどで「1分でわかる認知症」とかだと頭に入りやすい気がする。

提案内容

認知症になった人を介護する人呼びやすい環境にする。
バスや電車で認知症になった人がすぐ分かるように、シールやバンドルをつけさせて介護しやすい環境にする。
認知症になった人がいる家族に補助金を出して介護に回せるお金を渡す。
また介護する時の注意点などが書いてあるマニュアルをくばる。
公民館に認知症とは、なったらどうなるのか、どういふうに介護するのかなどが書いた紙をはる。

認知症についての講座やイベントを開催する。
認知症に関連する記事を読む。
学校で認知症についてを授業の一環として行う。
認知症について学校で教育する。

いろいろな世代の人たちに認知症を理解してもらうために講座やイベントなどを作る。
認知症の家族の人は偏見などで、周りの人たちに助けや相談にのれないので、それを解決すればよいと思う。
埼玉県は老人ホームと病院が少ない、増やしたほうがいい。
ips細胞を使ってなおす。

現在あまり応援できていないのは、認知症の人やその家族が、地域の人から誤解や偏見が持たれることを恐れているからだと思う。
だから誤解や偏見をなくせば認知症の人やその家族が認知症をかくさずに、地域からの応援をうけることができるようになると思う。
誤解や偏見をなくすためには地域の人全員が認知症について正しく理解しないといけないと思う。
そのために、小学校や中学校で認知症について学ぶ講座を行い子供のうちから認知症について理解してもらう。
また、大人むけの講座も大人数が集まれる所で行い、できる限りたくさんの人に参加してもらうようにお知らせする。
そうすれば解決できると思う。

定期的に認知症についての講演を行う。
VRなどで認知症の人からの視点を体験できる施設をつくる。(アプリ、動画なども)
認知症の人に市指定の住所、名前、電話番号のかかれたカードを持たせる。
認知症を正しく理解した上で、本人やその家族を応援する。

市で講演会を広く。
ヘルプマークをつける。
認知症の人のためのバリアフリーをつくる。
誰かが付きそいでいる。

学校の授業でやる(幼稚園とかでも) こうえん会を開く
校外学習として老人ホームにいかせる
SNSで発信する
ポスターなどをはる
認知症になったらどうなるかの体験型ゲームをつくる
実際に認知症を体験した人の本などを読ませる(学校に設置したり)

定期的に認知症に関するセミナーを行い、人々の認知症への関心を高める。
そこでは、認知症の家族をもつ方や専門家を招いて参加者の知見を深める。

認知症の人は迷子になってしまうとよく聞くので、地域の人で協力し、変な道や場所に行こうとしていたら止めたり、家に帰るようにうながしたりするようにすれば認知症の人が迷子になることも減るのではないかなと思う。
また、認知症は病気であるという意識を持ち、優しく接する。
他にも認知症の方の家族にも認知症の方が迷子になった時なども「～で見た」や「～へ行った」などを伝えていけば見つけやすくなるし、一緒に探すのを手伝うなどをすれば万が一がある前で見つけることができるのではないかなと思う。
地域で認知症についてもっと知る機会があれば、積極的に協力してくれるようになると思う。

まず、認知症とはなにかと知ってもらうために、子供たちには道徳の授業の一環として地域の医師の方々に授業をして頂く。
認知症とは何なのか、認知症になるとどうなるのか、子供たちに理解してもらう。
しかし、大人の偏見が子供たちに伝わってしまうと負の連鎖になってしまうので大人の方も認知症について理解してもらう。
理解してもらうには地域、または会社で認知症サポーター講座を受け、認知症について理解してもらう。
学校では授業の一部を使って身近に潜んでいる認知症について周りの人が認知症患者の場合、どうすればいいのか、どうすべきなのかを説明し、大人の方も同様に認知症についての理解をし、どんな人でもくらしやすい町づくりを提供していく必要があると思います。

認知症を正しく理解するためには認知症に対する偏見をなくしていくことが大切。
図書館に認知症に関する本を並べた本棚をつくって人の目につきやすいようにする。
また、若者はインターネットをよく使うので認知症に関するニュースを多く出すことによってより多くの人に興味を持ってもらうようにする。

早期発見ができれば、あまり困らずに生活できます。
アルツハイマー型の認知症は、幻聴、幻覚などの症状もあるので、色々困ることもでてくると思います。
普通のいづもどおりの生活をおくってれば、問題ないということを見てきました。
『認知症＝老人』という考えをなくしていきたいと思います。
家族の誰かが認知症になったら、突き放したりせずに、温かく受け入れることが大切だと思います。
外に出て散歩することもいい記憶回復につながると思います。

- ・定期的に市内で認知症やその関係者を集め、話を聞く会をぼしゅうすればよい。
- ・認知症やその関係者へのほ金を市がつける
- ・認知症についてのセミナーを市が開く

認知症になっている方、その人を世話している方たちが積極的にその症状や、困っていること、認知症でもできること、助けが必要なこと、今行っている取り組みのことなどを公に発表していくなどの活動の活発化が必要だと思うし、それをわかりやすくまとめるなどをして小さい子供から中高生、大学生、若者にも伝えることを大事にするべきだと思う。
また地域に認知症の方がいる場合であれば、それがだれもがなる可能性があることを理解してもらい、地域の方々にもどのようなことをしてほしいなどの協力をあおぐこともいいと思いました。

まず認知症を正しく理解してもらうためには、どのようなことが不便かなどを提示することが大切だと考えられる。
そのため認知症の人たちと話したりできるふれあい場所のようなものをつくるなどがいいと思う。
オンラインでの会話でも認知症の人とふれあうことでどのようになってしまうか、そしてその周りの人たちはどのように接しないといけないかが考えられるのではないかな？
市町のほうでも協力してもらい小中学校などでやるだけでもとても考えさせられる授業になるのではと思う。
又、認知症だけでなくいろんな障害者などとも話せる空間を生みだすことで、いろんな年代の人たちに分かってもらえるのではと考えられる。

インターネットで調べるだけでは実際に認知症の人たちと関わっていない分、理解が深まらないので家族に認知症の人がいる、など知人に認知症の人がいる人に話してもらう場を作る事で正しく認知症を理解する事ができる。

提案内容

- ・道徳の教科書に認知症や脳の病気についての文章を取り入れる。
- ・認知症についてのHPをつくる。
- ・認知症への関心を高めるために、SNSやテレビなどたくさんの人が見るところに広告を表示する。例えばメッセージ発信をしているCMなど

・全国の学校で認知症の人間への理解を深めるための策を実施する
例 道徳の授業等で認知症に関する題材を多く取り上げる
認知症の人のことを理解したいと思ったらインターネットで簡単に調べられる時代
それで認知症の人が住みにくいってことは人々があまり認知症に関心を持っていないということ
じゃあもう必修にするしかない
ただ本格的に国民の意識を認知症に向けさせるためにはこの程度じゃ足りないし、授業でやったからってそう簡単に意識が変わると思えない
やっぱりもうどうしようもないってくらい日本で少子高齢化が進んでから国策として出すのが一番リスクが少なそう
ただその時にはもう手遅れかもしれないし既に手遅れかもしれない

認知症を理解してもらうために、認知症を名前くらいしか知らないという人や若い人に、「認知がどれほど恐ろしいのか」、「認知症になりづらくなるにはどうする」といった具体的な実体を伝える。義務教育過程の道徳の授業からだれでも分かる要らない内容を取り除いて空いた時間に認知症の詳細を教えたり、認知症の人をどうやって気づかっていくかを検討する。

- ・認知症の人がいる家族に、「認知症になるとどうなるのか」「認知症になってもなにかできるのか」のアンケートをとって、それをわかりやすく、全年齢に伝わるポスターなどをつくる。
- ・道徳の授業などで認知症についてちゃんとしてもらい、どうすれば誤解がなくなるのかを考えさせて、認知症の人の偏見をなくしていく。
- ・認知症についてくわしく教えてもらえる講座をつくって、もし認知症の人が周りにいても、偏見がなく、認知症の人も心地よく過ごせる人をふやす。

- ・学校で認知症についてのセミナーを行う
- ・認知症のおそろしさを知れるサイトを作る
- ・認知症の人たちと家族から話を聞ける場所を作る
- ・認知症の人の家族の人たちが話合える所を作る
- ・認知症の人たちがこまらずらせる町を町全体で作れるようにする

・学校の授業で認知症だけでなく他の病気や障害の事もきちんと教えるべきだと思います。
警察署の方が来て麻薬や未成年の犯罪については聞くのですが、こういう病気などは学校でも教わらないので、浅はかな知識で家族やまわりの人が認知症になった時にどのように対応していいかわかりません。
そのため、学校だけでなくいろんな場所で教わる機会があるといいなと思います。

まず、大人は認知症サポーター養成講座に行くほど暇はない。週末も子供の世話、家事で1日が終わり、子供が成人しないと時間はできない。
でも子供から成人すると自分が認知症になりかねない。
でも子供産まないと政府にいわれるし。
子供の道徳の授業で扱う、特別学校じゃなくてふつうの学校で暮らせれば理解できる。
さすがに講座にはさいたま市からも金はかかるし、人は少ないならよほどのこと廃止すればいいと思う。
サポーターもボランティアじゃなくする。
そーゆーのにお金をかけてほしい。
さいたま市には自分たち130万人の税金を正しく必要な所で使ってほしい。

- ・さいたま市の学校に授業の一環として認知症を理解するために認知症についてもっと知ってもらう機会を増やすよう要求する。
- ・さいたま市のホームページでさいたま市が認知症の人にやっていることを掲載し、協力してもらおうよう、呼びかける。

認知症の人がいる、家族を応援するために、認知症の人がいる家族の組織をつくり、認知症のことについて学んだり、認知症の人がいる家族で互いに相談したりできる場所を設ける。
地域の人にもっと認知症を理解してもらい認知症の人がいる家族がもっと、困らないように相談所をつくったりして不便のないように生活ができるようにする。

認知症の怖さや誰にでもおこりうることだということを小さい頃から学ぶ。
認知症の人への正しい接し方を学ぶ。

学生の時から、道徳などの授業にとりいれてみる。
認知症について、自分たちで考え、適切な対応を知り、その人にどのように接していけばいいのかわかれば、大切な人がもし認知症になってしまったりして助けが必要なき、理解してくれる人がたくさんいるため、精神的に安心することができると思うし、周りの人も配慮や援助がしやすくなると思います。
そのため、受ける人が多い学校の授業などで理解することができれば、認知症の人に正しい対応をすることができる人が確実に増えていくと思います。

- ・認知症の理解を広め、誤解や偏見をなくせるように、中高等学校で授業をひらいたり、認知症を身近に感じられるような取り組みをする。
- ・県で認知症の悪化をとめれるのに優秀な病院などをまとめた資料を用意していつでも認知症の人やその家族に送れるようにする。
- ・認知防止の会(?)的などを作ってその会に来た人達に勉強や作業をさせ、根本的に認知症の人を減らす。

認知症を正しく理解するためには行政機関が正しい情報を周知することが必要です。
これを実施する手段の一つに広報紙での周知が考えられます。
広報紙は市内の全家庭に配布されるため、多くの人に情報を届けることができます。
また駅の中または周辺での広報活動が考えられます。
市内には大宮駅を始め全国有数の巨大な駅が複数箇所あり、そこには市内に通勤・通学・居住する人々が利用しています。
その集団に対して実施することで効果的に周知できます。
以上のことより多くの人に伝えることが大切だと考えます。

- ・認知症について正しい情報が分かりやすく書かれた資料やポスターを地自治体が作成し、家庭に配布する。
- ・市で講習会を開く。
- ・学校で認知症について学ぶ機会を設ける。
- ・インターネット広告は影響が大きいので、そこにお金を使う。

提案内容

私は今回の提案書で初めて認知症について考えてみました。
現代の社会では、インターネットが発達しており、調べてみると、たくさん色々な情報が出てきました。
ちなみに定義は「正常に発達した知的能力が脳の老化や器質的疾患などによって低下した状態。」らしいです。
実は私には認知症のおばあちゃんがあります。
認知症の中でも軽度の方らしいですが、何度言っても忘れてしまったり、同じことをくりかえししてしまったりすることがあります。
それに対して、おじいちゃんがかかりきついことをおばあちゃんに言っているのを見ると胸が痛くなります。
私は認知症の人やその家族を地域で応援するためには、まずは多くの人の理解が必要だと思うので、みんなに知ってもらわなければならないと思います。

認知症を正しく理解するためには全国の小・中学校で認知症についての理解教室のようなものを設ければ良いと思います。
認知症とは、認知症になるとどうなるのかなどといったことを生徒に教えればいざ自分が認知症の方と遭遇しても対応することができると思います。
また、認知症を正しく理解すればそれに関する事件や事故も防げると思います。
45～50分といった短い時間ではありますが、このような教室を設けて多くのご老人が救われると思います。
小・中学校でなくても地域の行事で教室を開くのも良いと思います。

私は埼玉県に住んでいないので既に埼玉県で広く実施されているかわからないが、小学校で老人ホーム等に訪問し認知症の方々と交流する課外学習を行ない、其の前後で認知症に対する授業を受けさせれば良い。

認知症の人は自分の身の回りの事を忘れる事だけでなく勝手に家を出て行ったっきり戻ってこないと言うのもよく聞くので、高齢で一人暮らしの方や認知症を持った人の家に見守りサービスをつける事を努力義務にしたり、地域での応援としては、小学生など学校で認知症について学べる機会を設けること。
認知症については小学校低学年とかだと理解が難しいと思うので小学校高学年から中学校3年間のどこかで学べたら良いのかなと思う。
そこには専門家の医師もだけれど、ご協力頂ければならぬ認知症を持った方のご家族とかに介護してた時の話や大変だった事とかについても聞く機会があれば正しい理解が出来ると思った。

認知症についてわかりやすく解説した紙を病院などにおいておく。

家族や身近の人達に認知症を見つけて罹患者の立場に立つ必要がある。
家が分からなくて帰れない人とその家族のつらさを理解するにはとても難しいことだから寄り添うことが大切だと思います。

自分の祖父が認知症で、自分の名前とか忘れそうです。
認知症の人は、目がどっか向いてしまっている。
そして、会話がまともにできない。
いまは施設にいれています。
正直入れたくありません。
僕は、認知症の人に、認知症のことを説明するのは、不可能だと思います。
なので、認知症になった自分の祖父母を実際に見て会話することが認知症を理解する最適な方法だと考えます。

- ・学校や会社で、認知症について説明するセミナーを実施する。
- ・認知症の人々と交流する機会を小学校等でつくる。認知症の人々と遊んだり、物を作ったりして認知症の人の可能性を知ってもらう。
- ・認知症の人の外出に同行する人を募集する。

地域のコミュニティセンターなどで、認知症に関する講習を行うことで、正しい情報を周知できると思います。
地元の人から、啓蒙ポスターを募集して、それを掲示板などに貼れば、興味をもってもらえると思います。

ホームページに認知症に関するクイズをつくってアップする。
若い人は自治体のホームページなんかめったに見ないから大した成果はないはず。
「認知症」ってインターネット検索に入れて検索したらそのクイズが上の方に表示されないとちょっと厳しいかもしれない。
もしくはパンフレット等を全世帯の郵便受け入れると読む人がある程度はいるかもしれない。
字は大きめにして、高齢者や子供の人達にも読む気持ちをもってもらう。

認知症やその症状などあまり知られていないことまできちんとレクチャーする講義を開いても良いと思う。
認知症の人を家族にもつ人からのお話などを聞かしてもらっても良いと思う。

憲法違反ではないと思うが病院などにパンフレットをおいてヒマな人々によんでもらう。

認知症の人々や老人ホームなどと小学生が合同でレクリエーションをしたりして、実際の経験を通じた学習をする。

各地の病院で、地方団体の支援を元に、認知症についての講演を行い、その中で認知症の人がとりやすい行為などを住民に説明し、認知症の人に会ったら優しく対応するように呼びかける。

あまり今の時代地域の人と交流があるわけでもないが高齢の方と会わずあまり理解できていないのが現実だと思います。
そこで私は今若者に人気のあるマンガや映画などを通して生活などを発信すれば理解が深まると思います。
例えばなにかおこってそれを町の人か助けるとかそういうものをマンガにしたりアニメでも良いと思います。
⊕の面ばかりではなくちゃんと⊖の面も発信することで事実性をしめしたりするといいです。
あとは動画を投稿できるSNSでも配信するのいいと思います。

小学校ではまだ難しいかもしれないので、中学、高等学校などで1年に1度の認知症とは何かを学ぶ特別授業を実施する。

家族や周りの人に認知症の人がいる環境ならば直に話し、正しいイメージを持つことができるが、全員がそのような環境にいるわけではない。そのため認知症の人と直接話し合える機会が必要だと考える。
たとえば、毎月公民館に認知症の人を呼び、日々の生活の中の悩みなどについて話してもらったり、あるいは間接的ではあるがその時の内容をまとめたパンフレットを各家庭に配布することで、当事者のリアルな声を聞くことができる。
それによって認知症について正しく理解することができると思う。

認知症の人々が街の人々や生徒たちに講演をする機会を設ける。
市民会館や学校で講演をする機会を設ける。チラシを市内に配る。

日頃から認知症の人々と交流する機会を作り、認知症とはどのようなものであるのかを直接理解できるようにすればよいと思う。
また、そのような機会に参加できなかった人には回覧板やインターネット上にその時の様子や、専門家の話を載せると全ての人に理解が広まると思う。

認知症はわざわざ理解するようなものではなく、ヒトの自然なすがたであるので、3歳児と接する感覚で人と接するとよいと思われれます。
SNSで、認知症の正しい知識を広告で出すとよいでしょう。
また、介護関連の詐欺も多発しているので、国のマークを入れるといいですね。
市役所での講習会やセミナーなどは対象となる年齢層が、認知症になってきているので、効果は少ないでしょう。

提案内容

※認知症はthis diseaseとします。
This disease is known to many people, but most of them don't know what happens to people who have caught this disease.
There I have an idea.
Many people are using the Internet including SNS now, so I think that it is a great idea to tell this disease to people through SNS.
Thanks for reading.

認知症についての授業を学校で行えば、学生には伝わると思いますが。
認知症の人が地域で講演を行えばいいと思いました。
家族に認知症の方がいる人たちで、集まって交流会をするのもいいと思いました。
実際に経験したことや、悩みだったりを共有することで、共感できたり、解決方法が見つかったりすると思います。
また、認知症の人同士で交流できたら症状とのつき合い方だたりを相談できると思っています。
「認知症サポーター養成講座」の存在を私も知らなかったもので、まずは広めることが大事だと思います。
回覧板や学校でそのお知らせのちらしを配ればいいと思います。

認知症といってもたくさんの症状があります。
私の祖父は、方向が正しく理解できなくなっただけなのに重度の認知症と、周りから思われて病院で入院されそうになったことがあります。
そのように様々な症状があることを周りに知ってもらう必要があります。
そのために、老人が多くいる高齢者しせつに分析が1目で分かるポスターや冊子などを共有スペースにせっちして、広くみんなが分かるようになる
と思います。
また、内閣などが、2、3年に1回、高齢者と共にする家族に分かりやすい便りを渡すべきだと思います

小・中学校で、認知症や発達障害の症状について学ぶ機会を各学年に何回かもうける。
また大人でも学べるように、講演会を定期的に地域で開く。
認知症でしかたがなく物を忘れてしまう高齢者が「認知症ではないか？」と聞かれて「そんなのじゃない！」と言いついてしまい、結果、あまり良い気持ちでなくならない、という話があった。
そうならないためにも社会全体で認知症について学ぶ機会をもうけるべきである。

認知症の方やその家族を地域で応援するために、まず私たちが認知症について学び、症状の正しい理解に努めなくてはいけないと思う。
そのためには認知症の方が身近にいるという実感を持つことが重要なので小学生や中学生が課外学習の一環としてデイサービスや老人ホームなどへボランティア活動を行い、実際に目の当たりにすることで自然に認知症に接することができる。
また認知症についての出前授業をデイサービスの職員さん方へお願いし、正しい認知症は「恥」という概念を取り払い地域で様々な支援を行いやすい環境をつくれると思う。

学校や地域の公民館などに認知症の専門家の方をお招きして認知症についての正しい知識をつけられるように講義をしてもらう。

僕には、認知症である祖母がいます。
祖母は、しばしば鍵をなくしてしまったり、財布をどこに置いたのか忘れてしまったりして、人に迷惑をかけてしまうことがあります。
認知症の祖母1人で生きていくのはとても苦労を強いられるので、よく祖母の娘や母が祖母の家を訪ねて、手伝いをしたり、失くした物を探したりしています。
それで、認知症である祖母も、自分を助けてくれる人がいるという安心感で、元気に暮らしています。
認知症の人とよく関わり、手助けやたくさん話をする事で、その人の心のよりどころとなるのが大切だと思います。

認知症は自分が実際に介護するようになる前の小学生・中学生・高校生の頃に理解しておくことが大事だと思う。
そのためには、各学校に認知症の人を介護した経験がある人や、医療従事者を派遣して、認知症について話してもらうようにするのが良いと思う。
しかし、現在の医療現場の状況では、各学校に人を派遣できるほどの人材の余裕がない。
そのため、認知症についてのボランティアチームをつくって、そのボランティアチームから認知症の話をする人を派遣すれば、人材不足の問題も、なんとかなるのではないかと。
また、その講演のときに認知症についての薄いマンガ本などを配る。
そうすれば、小学生でも気軽に認知症について勉強しようとする事ができるのではないかと。

- ・実際に、家族の中に認知症の人がいる方の、「普段困っていること」や、「こうすれば一緒に生活しやすい！」という様々な意見をまとめたウェブサイトや掲示板を設置する。
- ・「認知症」という病気は、そもそもどのような病気なのか、ということを知ってもらうためのポスター
- ・認知症の人達の周りの環境を整える。→周りの人の、認知症に対する理解を深める。認知症の人が不自由なく生活できる環境を整える。
- ・認知症に対する講習会などを地域ごとに催し、意見を聞く。

学校で認知症に関する講義をすることで認知症の理解が増えると思いました。

まずは自分たちの「認知症」への意識を変えるべきだと思った。
表に記載されていたように何もできない訳ではないということを理解し、同じ一人の人間として接することが重要であり、自分たちの使命だと感じた。
そのためにも、実際になっている人の話（これは代理をたてるべきかもしれない）を聞く機会をつくり、何をすることができて、どこまで覚えているのかを知る必要がある。
先日、語り部さんの話を聞いたが、実際に被害にあった人だと一つ一つの言葉の重みが全く違った。
難しいかもしれないが、人々の意識を変えるためには必要な取り組みであると私は考えた。

認知症になってしまった人に実際に会ってみる講座を無料で開講する。
自分の家族が認知症になってしまったらという想像とともにとどう接していけばいいのか、どのくらいの医療費や負担がかかってしまうのかなどを知った上で認知症がどのようなものなのか誤って理解しないように中学・高校で基礎的な知識を身に付けるようにする。
また、家族内でも将来家族で認知症になってしまったらどうするのか決めておく。
さらに実際に認知症の家族がいる方の体験談を聞くなど。
また、開かれた講座で来てくれた人たちにお菓子を配る。

最近インターネットを使えば色々な事を調べられるけれど、多くの人は「自分はまだ認知症ではない」とか「認知症にはならないだろう」と考えているような気がするので、日常で認知症に触れる機会を設けることが大事だと思った。
だから、例えば自治会からチラシや手紙で年代に関わらず、月1などの頻度で認知症について伝える機会を設ける。
または、身内に認知症の人がいた方から病気が発覚した後の過ごし方などを講演してもらう機会を設ける。
今となっては高齢者でなくても若い人でも認知症になることだってあると思うから、意識として他人事ではなく自分のことだと思って身の回りで認知症に関するニュースとかに気をつけて見るのもいいと思う。
誰も自分が認知症でないと自信を持って言える人はいないと思うので、意識から変えていくのが大事だと思う。

提案内容

- ・認知症に詳しい人がいろんな学校に行って講習会を開く。(特に小学校)。
- ・学校のチラシなどに認知症についての内容の紙を配る。
- ・認知症についての動画を生徒用パソコンで見れるようにする。

認知症の人の視点のシミュレーションゲームを作る。
ゲーム内で自分ができる発言、行動、思考はすべて認知症の人ができる発言、行動、思考に即したものにす。
認知症の人や医師の監修を受けながら制作することでただのゲームではなく専門的で、感情を揺さぶるゲームにする。

学校の特別授業として認知症について話をさく機会があると良いと思う。
またその時に希望した保護者も参加できるようにする。
話をする人は、認知症について研究している人や、実際に認知症を持っていて子どもたちに対してそのことを話してくれる人、その家族などと呼んだら良いと思う。
話は認知症そのもののことはもちろん、話してくれる人によって、何をしたら少しでも予防できるのかであったり、家族がそうなった時にどのように接していけば良いのかを聞くことができたら理解が深まる。

- ・まず認知症とは名前は知っていてもどのようなものなのか、どこまで忘れてしまうのか理解が不十分であると思います。
- ・そのため正しく理解するには、あまり良いことではありませんが認知症の方を家族にもつ方にどこでその方が家族の認知症に気がついたか、どのように接しているかをいろいろな人に認知できる場があるといいなと思った。
- ・また、認知症の早期発見をするために何かこういう傾向が〜というものがあるなら学校などで発表、や教育して頂けるとありがたいです。

小中学校などで探究活動の1つとして、認知症についての理解を深めるパンフレットやポスターなどを作成し、公共施設などに提示するとよいかないと思いました。
また、市立図書館などに、認知症についての本のコーナーなどを設け、多くの人が利用できるようにするとよいかないと思いました。
さらに、市の公式ウェブサイトなどに、認知症についての理解を深めるための子供向けのクイズなどのコンテンツを追加するとよいかないと思いました。

私は、認知症の正しく理解するためには、正しい情報がのったホームページをつくり、また、実際に認知症の人から話をしてもらったり、話すことができなかつたら、手紙でも良いので、実際に認知症で悩む人の気持ちや体験を広めていくことが大切だと思いました。

認知症が正しく理解されるためには、認知症に詳しい人が認知症について説明する場を設けたり、当事者の親族らが認知症に対して間違った理解をしている人に、認知症とは何なのかを説く必要があると思う。
また、②をするためにはまず①をしなければいけないだろう。
間違った理解をした人が応援してくれるとは思えない。
正しく理解した上で、他人事ではなく自分の事のように受けとることで、②の実現に近づくのではないだろうか。

認知症を正しく理解するために、それについてあまりよく知らない人たちに興味をもってもらう必要がある。
人々がよくそれについて知ってれば偏見につながるおそれ、不安もなくなると思う。
そのために、学校で子ども達が興味をもつような、分かりやすく、ユーモアを交えた資料を配る必要があるかもしれない。
大人たちや社会にはSNSの広告などで興味をもってもらえるようにするといいたいと思う。

認知症を正しく理解するためにさいたま市が認知症について正しい知識を詳しく教える講座を開設する。
認知症の人もしくはその家族や介護する人たちが集まることができるコミュニティーをつくる。
そのコミュニティーに認知症への理解が浅い人に来てもらって正しい知識を得て理解を深めてもらう。

- ・認知症についての誤解や偏見は患者さんと関わる機会のない人達の知識の少なさが原因だと思う。
 - イラスト等を使って分かりやすく説明されているポスターを地域のコミュニティセンターや病院に貼って理解度をあげることが大切だと思う。
 - ・患者さんの家族が孤立しないよう、認知症患者のコミュニティを作り、他の家族の事例や生活の工夫などを共有し合う機会を設けたらいいと思う。
- そうすることで患者さんと接する時間が長い家族にも心の余裕が生まれ少しやりやすくなると思う。

- ・公民館に認知症関連の本を置く
 - ・小中学校で毎年認知症について知ろう！の会をやる※30分以内にしてください飽きます
- お礼の手紙や知ったことをまとめるのも大事ですがあまり書かせないでくださいせめてワークシート形式に。そういった会自体嫌になります
その時にミニブックなどを配布する
希望する保護者も参加できるようにしてみよう
認知症にならないと“正しく理解”はできないと思うから“知る”ことが大事だと思う。
そもそもこういったことに誤解や偏見のある人は他の物事に対しても誤解や偏見があるだろうから誤解や偏見を減らす会みたいのを開催してみよう
どうでしょうか

実際に認知症の人に会って話をしてみる。
認知症に詳しい人の話をよく聞いて自分が実際に認知症になったと想像する。
学校の授業の1つを使い、認知症の専門家に講義をもらって聞いた生徒たちがその家族や友人に知らせていけば認知症というものが世間に広まっていくと思う。
また、認知症を広めるためにポスターを作成したりする。

市で1つ認知症に関する動画のアップロードや認知症の人が見ている世界などを体験したりできるような施設を作ってみるなどの対策はどうだろうか。
また、認知症サポーター養成講座の認知度を高める為、市内放送や、市のサイトで宣伝することも必要だと思う。
もっと気軽に認知症について学べる機会を増やすことができれば正しい理解もおのずと得られるはずだと考える。
分かりやすかつ気軽に認知症について理解できる機会というのが中々ないと感じたので、上記のような取り組みを行うことで、少しでも認知症への正しい理解を促進させていくことが重要なように感じた。

各学校で認知症に関する正しい知識を学べる講義を行う。
実際に市民の人たちが認知症の人たちと触れ合うことができる機会を市で設ける。
子供の認知症に対する理解を深める。

まず、認知症を正しく理解するためには、認知症がどのような病気なのか、また認知症の人にどう接し方をすればいいかを適切に教えてくれる講座のようなものを市で開いたほうがよいと思う。
また、認知症の人が自分が認知症であることが分からなかったりするかもしれないので、認知症の人向けの講座も必要だと思うし、また、認知症の人同士で喋ったり、ゲームをするなど色々と触れ合える場所を設けることで、認知症の人が思ってる辛いことも吐き出すことで少し楽になると思うし、新しい解決方法を見つけ出すことが出来るようになると思える。
認知症は1人では対処しようがないけど、色んな人の支えがあれば絶対に良い方向に向かうと思う。

提案内容

認知症について詳しい精神科や脳神経外科の医師の人に協力してもらって、様々な学校で授業内で説明会を開けば未成年には正しい認知症の認識が
つくと思う。
大人が正しい理解をするためには、見られるかは分からないけど、SNSで正しい認知症の知識を動画や映像にしてアップすればそれなりに見てく
れる人はいると思うので、認知症について分かってくれるかもと思いました。
また、テレビ番組で認知症などの身近な病気について特集を組めばSNSを使わないような人、おじいさんおばあさんにも届くのではないかと考
えました。
そして、そんな認知症の人にやさしい町にするためには、まず家族内ではできる限り「普通の人」として接してあげてを提唱します。
今ぼくの母が老人ホームの介護の仕事に就いていて、その中で認知症の人もいるのですが、その時はその人のいつも通りに合わせてあげた方がスト
レスがかからないそうなので、家族内ではそういう接し方を心がけたいと思います。

「市内の小・中学校で施設見学の機会をつくる」認知症の授業を学校で行っても、身近なこととしてとらえず興味のない生徒は話をあまり聞いてい
ないことが多いと思います。
そこで、入所の方に迷惑にならない程度の施設見学を行えば、生徒たちも興味をもって話を聞き、身近にとらえるのではないかと考えました。
正しい知識が身につく問題意識が生まれれば、若者の誤解や偏見もだんだん減っていくのではないのでしょうか。

小学校や中学校に出向いて認知症についての講義等を行い、子供たちを中心に認知症について広めていって、次の世代にどんどん広めていけるよ
うな活動をする。
認知症についての説明をとった動画を若者がよく見るSNS等に投稿し、気軽に閲覧できるようなくみを整える。
地域の人々がよく通うような場所に認知症についてのポスターをはったり、そこで講演会等を開く。

若い人にも認知症についての理解をしてもらうために、SNSで認知症についての投稿をする。
また小学校や中学校で説明会を開き、理解を深めてもらう。
認知症についてのマンガを作り、学校などで配る→小学生でも読みやすい。
クイズラリーでゲーム感覚で認知症について知れる機会をつくる。→小さい子でもあきない。
オレンジリングを作るイベントを開く。

・学校の授業で、認知症サポーター養成講座を取り入れる。
私は小学校の時に学校で認知症サポーター養成講座をしてもらってオレンジリングをもらってランドセルにつけていた記憶があるけど、他の学校の
人はやっていなかったみたいだし、小学校の時の1回だけでは記憶が曖昧な部分もあるから、小・中・高でその講座をしてもらう機会をつくるべき
だと思う。
・道徳の教科書の題材で「認知症」についての話を読んだことがない気がするから、道徳の教科書に「認知症」についての話を入れるべき。

私も認知症については、何もわからなくなっているという印象で、どういう病気なのかということ詳しく知りません。
なので、学校で認知症についての授業をしたらいいと思います。
学校で習ったことは、その時は何も思わなくても意外と記憶に残っているので、自分の身の回りの人が認知症になった時に役立つのではないかと
思います。
また、有名なテレビ番組や、動画を投稿できるSNSなどで認知症についてのことを放送してもいいと思います。
堅苦しい感じだと、どうしても抵抗感が出てしまうので、誰もが気軽に認知症のことを知れば正しく理解できるのではないかと思います。

僕が認知症を理解する上で最も大切だと思うことは実際に認知症の人をうけとって生活してみることだと思います。
もちろんそこには、事前の学習や環境作りなど様々な壁が存在しますが、自分が一度も経験したことのないものについて共感を抱くのは不可能に近
いことだと思います。
具体的に言うと、親族を家庭でうけとり、面倒を見れば、おこるであろうアクシデントを経験することができ、認知症の人によりそうことができ
ると思います。
一緒に困難をのりこえることができれば、絆は深まると思いますし、本人からきけば正しい理解にもつながると思います。

認知症についての映画を見てもらうのが良いと思う。
私は母と認知症にまつわる映画を見たことがある。
私も母自分の身におきたことのように考えることができたし、他の映画も見てみたいという気持ちになった。
市の図書館にDVDを置いたり、本を置いたりするのが良いと思う。

認知症の経験ができる施設というのを税金を用いて無料で開設した方がいいと思う。
聞いたり、見たりなどの体験より、科学技術を用いて、認知症を疑似体験することで、理解や共感も得ることができると思うし、体験によって得ら
れた不安を元に、介護や、認知症の方への対応も変えることができると思ったから。
また、その施設に老人ホームを隣接させるなどして、ヘルパーさん視点の悩みや、介護体験などが出来るようにすることで、さらに理解が深まるの
ではないか。（その施設内に認知症を治すための研究に使うと題した募金箱を置いてみるのもいいかも）

認知症を正しく理解するためには学校の総合の時間を使って認知症についての授業をしたり、インターネットや本を使って調べたことをパワーポ
イントや模造紙にまとめて発表する場を設けることで少しは認知症への理解が進むと思います。

そもそも認知症という症状自体自分もよく知らないで、まずは許可をとった上で、再現ではなく実際の状況を映像などで見せることで、症状まで
知ってもらうことが大事だと思う。
また、特に若い人は何も知らないことも多いと思うので、学校などで、認知症の人を支援してきた家族などに話を聞かせてもらうといいと思う。
そして、認知症という症状は今後一生なくならないと思うので、全ての人が正しく理解をし、認知症への偏見をなくしていくことが大切だと思う。

1、認知症を正しく理解するためには？
認知症については、僕自身もはっきりとは分からず、これについては多数の同級生も一緒だと思う。
これの裏付けるところは、やはり若年層の認知症への理解が浅いことである。
ではどのように解決するか？
僕は、義務教育中に、全員一度は認知症についての講義を受けるべきだと思っている。
そうすることで、認知症は身近なものであると実感でき、認知症への意識がより高まるからだ。
すると、講義を受けた生徒たちが大人になった時、広い年代に認知症の理解がいざわたっていることになる。

認知症を正しく理解するためには？
ポスターなどをまずは市民の目に入る場所に貼っておく。
興味が湧かないことに理解することはない。
学校にポスターを貼ったり講演をしたりするなどして、子どもにも理解が得られるような工夫をする。べきだと思う

・義務教育の小学校・中学校の社会の授業で認知症について勉強をする。
・小学校の障害者の方の日常を体験するという授業で体におもりをつけたりアイマスクをつけたりして校内を歩く体験授業があつてすごく大変な
んだなど実感したから、認知症を正しく理解するにはそういう体験授業があれば良いと思う。
・認知症の方やその身近な家族の方々などの講話を聞く機会をつくれればもっと理解が深まると思う。

提案内容

認知症の人と共感するのではなく、理解するだけなのであれば、今まで通りに認知症をまわりに広めることに重点をおいていけばよいと思う。なぜなら、ほとんどの人は認知症を正しく理解できているが、共感できていないだけであって、別に理解していないから誤解や偏見が生まれているわけではないと思う。だから、認知症に対する誤解や偏見は共感できていないことによって生じている錯覚であるから、正しく理解していると思う。

まず、認知症の具体的な症状やなるまでのメカニズムをいろんな人に周知してもらう必要があり、認知症になってから克服した人たちが体験談で地元の小・中学校などで語ることで、ある程度、認知症の表面的な問題について知ることができる。次に、認知症の内面的問題（体験談を聞いてもその本人にしかわからないこと）は、聞いても仕方ないので直接体験して知る方法が好まれる。例えば、VRゴーグルなどの仮想現実の技術を使って、認知症の人の生活を追体験するのも悪くないが、お金がかかるため、大人数で体験するのは難しい。そこで、簡易的な遊びを使って、疑似体験するのが良いと思う。（遊びの例：お題が1つあって、曖昧な情報を頼りにそのお題を当てていく遊び。）

自分も詳しいことはよくわからないのであまり大きなことは言えないが、認知症の症状は、なじみのない人達からは、「なんとなく」で理解されていると感じます。たとえば、「あー、あれでしょ。物忘れがひどくなるやつ。」といった具合です。そうすると認知症の人の介護を手伝おうにも、何をどうしたらいいのかわからなくなると思います。なので、具体的なことは何一つまとまっていなくて申し訳ないのですが、専門家（医師、研究者など）や認知症の人の家族による、具体的な症状の説明などを行う講座のようなものを開くとよいと思いました。そこから興味を持つ人が現れはじめ、2番のテーマにもつながっていくのではないかと感じました。

認知症とは「なにも分からなくなってしまう」「暴言などで周りに迷惑をかける」と思われがちですが、それは大きな間違いです。認知症の主な症状は「身だしなみに無頓着」「同じ行動や言動を繰り返す」「もの忘れ」などです。日常生活にある程度の支障は出ますが、皆さんが思っているほど重いものではありません。認知症の進行は周りの生活環境によっても変わり、皆さんがまだ認知症に偏見を持っていると間違った対応をして結果的に症状を悪化させる可能性があります。なので小さいうちから認知症の人とふれ合いの場を作ることで偏見を生みださないようにするべきだと思う。

認知症になった人の気持ちが分かるような体験型施設を作ったり、動画を制作する。認知症になった家族を持つ人の経験談や専門家のお話分かるサイトを設ける。偏見や誤解が多く広まっているのは、認知症の具体的な症例を知らないからだと思うので、正しい知識を得られる場所を増やすことが大切だと思う。

中学生すら（私も含めて）認知症への理解度が低いのは、たんなる偏見ではなく、そもそも認知症を学習する機会がほとんどないからだと思う。学習意欲のある人が学べただけでは偏見はなくなるし、いざ自分が認知症に関わる当事者になった時に学ぼうと思ってもそれではおそい。そこで、例えば学校の特別授業など、必ず誰もが一度は認知症について正しく知る機会をつくるべきだと思う。その上で、「もっと詳しく学びたい人は「認知症サポーター養成講座を受けてみてね。保護者もどうぞ。」みたいにチラシとかくれば、講座の認知度も上がっていくと思う。あとは駅前的大型テレビジョンで宣伝するとか。

小学生以下の子どもたちは、認知症について説明しても理解できない部分があるかもしれないので、絵本やイラストなどにして伝えればよいと思った。中校生の年代になると、祖父母が認知症を発症する家庭も増えてくると思うので、保健室前にポスターを貼ったり、そのことで困っている生徒や、認知症についてもっと知りたい生徒に向けてカウンセラーの人も増やせばよいと思った。

いつも誰かが認知症の人と一緒に行動する。家で誰かと思いを語り合う。僕は認知症の人やその家族を地域で応援するためには、1の認知症の正しい知識を地域で広め理解させ、誤解や偏見をなくす必要があると思いました。1つの方法は、学校の特別活動の時間に子どもたちに認知症の正しい知識について授業することです。まだあまり認知症のことをよく知らない、つまり偏見があまりない子どもたちに教えるのは楽だと思ったからです。さらにその授業でポスターを作らせて役所などに貼り付けるのも良いと思いました。

認知症は自分たちもなりうる病気だとわかっていても実感がかず、自分もちゃんと理解できてはいないと思う。自分になったら周りはどうなるのか、周りの人がなったら自分はどうなるのか、なぜ認知症になってしまうのかもちゃんとわかってはいないのでその部分の理解を広めれば、もっと身近なものになっていて、自分のを対策する人、周りの人のに備える人が増えると思う。これらを広めるには一番は近くに認知症の人がいることで、認知症の人を見たときに自分にも起こりうることだという考えが常に頭の隅にあれば、誤解や偏見はなくなると思う。

・認知症をより多くの人々に理解してもらうためには、そもそも市で開催している「認知症サポーター養成講座」を知らない人が多いと思うし、私も実際知らなかったのので、その事を知らせるために、各地域の回覧板でまわしたり、地域の看板に貼ったりなどをして、もっと、「認知症サポーター養成講座」というものがあることを知ってもらえればよいと思った。

認知症について身近なものであるということを知ってもらうために広告を出したり、身近な人が認知症である人の交流会を開いたりして悩みを共有したりして正しい認識が広まるようにする。また、もしどこか1人で勝手に出ていってしまった時、近所の人が一早く異変に気がつけるように、近所の人にもある程度は認知症であることを話しておくべきだと思う。いつだれがなってもおかしくない病気であるため、差別をしたりする必要はないと思う。近所の人にオレンジリングの人を増やし、いつだれがなってもサポートできる体勢をとる。

まずは小・中・高で認知症というものは何なのかきちんと教えるべきであると思う。また、実際に認知症の人にあってみて会話してみるのも良いと思う。その時に、あらかじめなぜ認知症が起きるのか、それは一体どういう原理なのかをわかりやすく説明してくれる教室などを作るのがよいと思う。

- 1、小学校とかで認知症の症状について学ぶ機会を設ける。
- 2、家族の生活を支えるため募金とかする。

全国の中学校や小学校で、認知症についての授業を行い、みんなが楽しんで授業を受けられるように、認知症の主な症状や、認知症のリスクが高まる日常生活における行動に関するクイズなどを出す。

提案内容

認知症について知れるような講座を各学校で開く
 認知症の方が近くにいるような人に話を聞ける機会をつくる
 認知症の方を地域全体で理解していく
 支援する
 重症度によって変える

市役所や駅にポスターを貼ったり、放送したりして、認知症について興味を持ってもらう。
 認知症サポーター養成講座について、もっと宣伝する。

高齢の方とその家族対象に、認知症という病気がまずはどんなものなのかという正しい情報を伝えるためのセミナーを実施すると良いと考えました。
 そして、そのセミナーが行なわれているということを知ってもらうために、県のホームページや公式のSNSなどで宣伝が出来るが良いと思います。
 さらに、セミナーでは認知症の方が実際にいる家族の方々のために、認知症サポーターの方に気軽に困ったことを相談出来る場があると正しい理解につながると考えます。

認知症についての授業を学校ですべきだと思う。
 毎日やるとかじゃなくて小五、小六、中1、中2くらいの時に1回だけする特別授業を設けてその時間に認知症について教えれば良い。
 そうすれば、日本の子供の大半は学校に行っているのでみんなが認知症への理解が深まるし、その授業で認知症の予防策を紹介すれば、将来認知症になる人が少なくなるかもしれない。

認知症を正しく理解するためには、まず認知症について学ぶ必要がある。
 僕たちは認知症のことに、ばくぜんとして忘れてしまう病気としか知らない。
 それをかいしょうするために市役所で定期的に認知症についての講座を開いて認知症についての理解を深めたり、80歳以上になったら保護者（今後、介護していくであろう人）といっしょに市役所で資料と共に認知症の説明を受けて理解を深めたりすれば良いと思う。
 結論として、今後、認知症を正しく理解していくためには、市役所の努力が大事になる。
 市役所は国民が一番信用でき、一番行きやすい場所であるからだ。
 現在でも大変だと思うけれど市役所の一声で認知症について正しく理解できるならば検討してみてもよいと思う。

認知症は認知症でも色々な型の認知症があるので、まずはみなさんに知ってもらいたい。
 具体的な知ってもらう方法は思いつかないが、知ってもらうことで理解されると思った。

認知症の人と関わる機会を増やす。
 認知症の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。
 認知症の人の生活を知り、普通人との違いを知る。
 認知症の人の介護を試みる。
 認知症の人が、認知症のことをどのように思っているのか聞いてみる。
 認知症の人が、他の人に、自分が認知症であることを伝える。

その地域の人たちがよく集まる場所で認知症についての説明会を開く。
 実際に認知症になった人の家族から話を聞ける機会を設ける。
 認知症についての絵本や本を集めたスペースを図書館に作る。

小さい頃から認知症を知っていれば偏見はもたなくなると思うので、小学校の授業などで取りあつかう。

市の職員や介護職の方が学校に来ていただいて、「認知症という病気は～という症状」と正しい理解をしてもらう。
 また、認知症の家族の方に、認知症の方との付き合い方や、家族が認知症と医師から言われたときの気持ちなども話してもらえると、より印象深くなると思う。
 かと言って、無理に認知症の家族の方に無理に話をさせて、心に傷が付くと元も子もないので、「自分と同じ気持ちになり、単に悲しむだけで終わらせたくない」というコンセプトで行った方がいいのかな、と思った。
 どちらにせよ、講演会を学校や公民館でやるのがベストだと思うので、ぜひやっていただきたい。

中学や高校で、認知症についての授業をする。
 その授業の中で、「さいたま市認知症サポーター養成講座」に触れることで、そもそもその存在を知らなかった人にも興味を持ってもらえるようにしたら良いと思う。
 若い世代の人達にはSNSを通じて、認知症の正しい知識を発信することで、触れ合う機会を増やすことが出来れば認知症への誤解を減らしていくことが出来るのではないかなと思う。
 新聞の一面に、認知症についてのことを定期的に入れたら、SNSを見ない人達にも認知症についての正しい知識を伝えていくことが出来ると思う。

認知症の人と積極的にコミュニケーションを取り、認知症の人の特徴などをとらえていくことが認知症を正しく理解することにつながると思う。認知症の人が自分の身の回りにいない場合は、認知症についてしっかり調べ、理解を深めていくことが大切だと思う。

認知症についての講義を小学生に対して行う。
 認知症が悪く思われてしまわないようにするため、小学生の間から知っておいた方が良いと思う。

認知症の人を介護している人の話を聞く。

学校や役所などで専門家等に認知症を分かりやすく説明する機会を設ける。

テレビで認知症についてのCMを流してみんなの認知症への理解度を高める。

- ・認知症について詳しい専門家の人や身近に認知症の人がいる人に正しい理解を促す講義をしてもらう。
- ・認知症について知っていることをあげてもらい、誤解していることが多い内容について詳しく説明するホームページをつくる。
- ・チラシや新聞に認知症についての一面をつくり、多くの人の目に触れてもらえるようにする。
- ・誤解していることと正しく理解していることを選択肢にしたクイズをつくり、子どもたちにも興味をもってもらう。

認知症について学校などで講演をする。
 そして生徒たちに認知症はどんなものか話し合ってもらったらいいと思う。
 また、認知症の人たちと話す場を設ける。

認知症とはどんなものかを学校で説明し、認知症の症状を知り、どう接するのが適切なのかを考える。
 今の人たちは認知症はいずれ皆なると誤解しているが正しい行動をとっていれば、発症をゆっくりにすることができるということを、知る、若い年代の人たちが認知症のことを正しく理解できたら、認知症の人をサポートできるようになっていき、その地域全体がよくなると思う。

学校などで認知症について知ってもらう機会をつくる。

1人さえ正しい知識があれば、そこから広がると思うので、（少なくとも家族内では）あまり急がなくて良いと思う。
 市でプリントを配付すれば良いのではないかな。

提案内容

まず認知症について正しく理解してもらうために、市が定期的に無料で受けられる認知症についての講演をする事を提案します。実際に認知症に詳しい医療関係者の方にも来ていただいて、認知症の方との正しいむきあい方や正しい対処の仕方を教えていただきたいと思います。そして認知症の方が家族の中にご家庭には金銭的な援助などをしたり、年配の認知症の方などを集めて老人ホームなどにあっせん または専用の老人ホームなどを市が建設し、市に住んでいる方を中心に施設で介護をするのも良いと思います。

認知症の人と一緒にレクリエーション等の地域交流ができる機会があったらいいと思う。又、実際に認知症の方に何かしらのプロジェクトやら演劇などの事を企画して、実際に実行してみればいいのではないかと。ポスターやパンフレットを作って、学校や、市役所に貼り出したり配ったりする。公式のSNS等で広告してみるといいと思う。

- ・ 若い人から半分くらいの人になる病気になるので、実際の認知症の人の生活を世間に広め、どうしたら楽しく問題なく過ごせるかを考えてもらうのが良いと思う。
- ・ 実際に自分になったらどうするか考える時間をつくる。
- ・ 認知症の人と実際に話す。
- ・ 認知症の人の介護をし、自分で体験する。

認知症を正しく理解するためには認知症に対する講習を小学校・中学校で行うべきだと思います。認知症に対して私たちの様な若い世代はメディアやインターネットで仕入れた偏見ともいえるような知識ばかりです。その様な世代に正しい知識を広めるためにも講習を開くべきだと思います。

インターネットや広告等を駆使し、現代の若者へ周知させる。出前授業を行い、学生が興味を持つ糸口をつくる。より身近な例を活用して分かり易い情報の発信に努める。各人がネットや書籍を活用し、正しい情報を知り周囲の人に広める多くの人が利用する公共交通機関の中でポスター等の広告活動を行い多くの世代の目にとまるようにする。

そもそも認知症を理解していない人が多いので、学校の集いや授業で取り上げて学生に知ってもらう。また、電車の駅構内や車内に認知症について、わかりやすいポスターをつくり、そこへはったり、車内で広告として電こう掲示板で流す。また、多くの人が集まる映画館で映画の上映前や、野球・サッカーのスタジアムで試合前に、認知症についてお知らせする機会を設けるようにする。その他にも、さいたま市内で開催される大きなイベント（お祭り、サッカーの試合など）にて、認知症について学べる特設ブースを設置し、知ってもらえるようにする。

この前にテレビである芸能人が親の認知症が悪化していることについて話しているのを見た。この方は、他人に認知症について知ってもらうために地域で会を開いて「授業」をしている、ということをやっていた。さいたま市でも同じようなことをすれば、若い人に認知症について知ってもらえるのだと思う。認知症の遺伝、症状、どのような人がなりやすいのか、対処法、などさまざまなことを知る機会にもなると思う。このような情報を身につけることにより、自分が認知症になったとき以外にも、親がなったときも、いち早く気付くことができ、悪化を防げるかもしれない！

- ・ 地域の介護老人ボランティアまたは、地域いりょうの医りょう体験講座を受けて、認知症かんじゃとのつながりや会話をとることで、認知症かんじゃへの理解が深かまると思う。
- ・ 認知症の人は何度も同じことをさくから、かんだいな心をもつことが大事だと思った。

認知症はさまざまな脳の病気により認知機能が低下して、日常生活に不具合が生じる状態を指します。誰にとっても認知症は身近な病気であり、今後、認知症の方々と関わる機会は増えるでしょう。しかし、家族が認知症になったとき、誤解や偏見から、そのことを隠してしまい、地域からの助けを得にくいことがあります。さいたま市ではそのような誤解や偏見をなくし、認知症の方々も住み慣れた町で社会の一員として、安心して生活を送れば良いと考えます。

正しく理解するためには、インターネットでサイトをつくるべき。インターネットだとふれ合う機会も増えると思う。しかし、知ったところで何か変わるわけではなく、何かバリアフリーとか言ってそういう方々に優しく接するのでもいいと思うが、それによって“普通”の人たちが不便を被るようなことをするのはどうかしてほしい。やはり老人ホームのようなものをつくってそこにまとめるのが先決だと思う。

いろいろな年代の人たちに、認知症のことをよく知ってもらう。認知症について学べる「認知症サポーター養成講座」に参加する人を増やす。誤解や偏見をなくし、正しく知ってもらう。認知症の人やその家族の声を聴いて、一緒に考え、解決する仲間をふやす。

まずは小学校や中学校で認知症の家族の方、病院に勤務している方が小学生や中学生を対象に講義をしてみれば良いと思います。小さいころからそういう話を聞いておけば大人になってからもしっかりと正しい知識を持つことができるのではないかと思います。また、実際に小学生や中学生が病人や老人ホームなどへ行ってみることも効果的ではないかなと思いました。そこで実際に認知症の方々と話してみたりすることでより認知症がどういうものなのかが分かるようになるのではないかなと思いました。あとは、病院や国の方で認知症とはどういうものなのかどんな人になってしまうのかというようなことをまとめたWebサイトを作るのでもいいのではないかなと思います。今の時代は小学生でもスマートフォンを持っている子が多くなってきているのでWebサイトを作れば小学生でも簡単に見れるのではないかなと思います。

電車での広告が学校の廊下、市中への掲示など、「見ることを強制されないが、よく目につく」形で認知症の実態や、理解の増進を図る内容の掲示を行うべきだと思います。なぜかという、よく、こういった形の問題に対する提案として「学校などで体験教室やセミナーを開く」などといった物があると思いますが、それでは「望んでもないのに半強制的に理解を求められるもの」といった、マイナスなイメージが認知症、ひいてはそのような周囲の理解を要する他の症状にまで定着してしまうためです。なので、そのような強制的な旋策をさげ、「あくまで見るも見ないも自由だが、よく目にする」という形での告知を目指すべきです。そのような形が実現できるなら、私が述べた方法にこだわらなくてもよいと思います。

現在の日本人の高齢の方に認知症を知ってもらうために地域の老人ホームと学校で連携を取って、職員の方々に認知症とはどんな症状で、介護する時どんなことが苦労かなどを学校の生徒に講義するべき。また、老人ホームでの行事を地域の新聞やSNSに書きこんで、色々な人に知ってもらうべきだと思う。（実際に家の近くの寿司屋で認知症で老人ホームにいる方々とお寿司を作る行事を掲示していただくため、）

認知症を深く理解するためには、テレビやラジオなどで、認知症に関する番組を放送することによって、認知症の理解度を高めていく、また、認知症のよぼうのための講演などを開くことによって、今の世代から、後の世代まできちんとした知識をつけさせる。学校の授業などで認知症を理解するための授業を行う。

提案内容

お店や学校に認知症についてのウェブサイトの2次元コードをはっておく。
 そうすることで気軽に誰でも見ることが出来る。
 認知症の症状や予防方法、認知症になってしまった人の周りの人の対応の仕方、日本の認知症患者の割合、認知症チェック、認知症になってしまった時の対処法などを子どもも大人も分かるようにわかりやすく書く。
 例えば、グラフを使ったり、漢字の上にひらがなを書いたりして説明する。
 また、文章を読むのは面倒くさい人がいるので動画も付けておく。

家族が認知症について知ることができる環境を市がつくり、月に1回地域で講座をひらき、認知症について、多くの世代に理解してもらい、価値観を変えさせていくことが、重要だと思います。
 また、認知症の人に対しての、セミナーをひらいたり、認知症対策に様々なことをして、認知症にあらがっていかうと、みんなでがんばりましょう

認知症の人々に対する講座を小学校や中学校でやって認知症の方々に対する接し方などを考えていく。
 認知症を予防するために何をやるかということを知って今子供の人々が認知症にならないようにする。
 認知症の人々が今どのように考えているかを教えて自分たちでどう接することができるかを考える。

地域の小学校・中学校や職場などで認知症を伝えるセミナーや授業をして認知症の知識を正しく広めたり、市のHPなどで認知症のテストや認知症の症状などを書いたりする。
 市の中に認知症の病院などがあればそこで実際に認知症の人たちにあたり普段どのように生活をしているのか実際に見たり治し方などを医師から聞いたりなどをするイベントを開く。

- ・日常的に認知症の人たちと接している介護福祉士やヘルパーの方々に話を聞く機会を学校などの機関等で設けることで、私達が知らない認知症の人たちのことをたくさん知ることができると思います。
- ・もしくは、認知症の人が家族にいる人に話を聞くことで、悩みや、苦しみを分かち合うことができると思います

認知症の人の症状であったり、何ができて何ができないのかを見れる、サイトをいろいろなどところにはったり、インターネット百科事典などにそういうのはってもらって広めることができると思う。
 また、自分の家族がそうだったときのシュミレーションやどう対応すべきなのかをまとめ、ゲームをついたり、クイズを作ったり、楽しませながら知ってもらい、そこからもっとまわりに広めてもらうのがいいと思う。

そもそもそこまで悪い偏見を我々はもっていないと思うので正しく理解する必要はあるのかと思ってしまう。
 だがもしこれで正しい理解が必要と言うのであれば心臓マッサージの練習や性教育のように子どものころから特別講習などを行って認知を広げるべきだと思う。
 だがこんなことをしなくても24時間テレビなどで障害者などのために頑張っている人々の映像が流れるだけで正しい理解が得られると思う。

認知症はとて本人にとっては辛いことだが、周りの人はそれに気付いていない。
 その問題を解決するためには、教育過程において認知症について学習させればよい。
 なので英語や数学と同等の扱いをすることが大切だと思う。

学生のうちに、認知症について、正しく理解できるように、義務教育のなかで、認知症を学ぶことのできるようになるため、ビデオをみんなで見たり、学習したりする。
 認知症の方の気持ちに寄りそって書かれている本を読んでみる。

お医者さんとかに認知症のことを聞いて親しい人や心を許している人にほど暴力的になってしまうなどの正しい知識をもらい、一緒にくらしている人の負担が少しでも減るようなサポートになればいいと思う。

認知症の人達と話す機会を作ることが大事だと思う。
 今の時代オンラインで認知症の方々と話す機会を作るのはあまり難しくないのでオンラインの受講みたいなのを作るのがいいと思う。

認知症の人の気持ちは、認知症の人にしか分からないのだから、自分が一回認知症になればいいと思う。
 そもそも正しく理解しようなんて言う前に、認知症にならないような生活環境をさいたま市が作りあげていくべきだと思います。
 身内に認知症の人がいると、本当に手がかかるしストレスも溜まります。
 認知症の人のために、自分の時間が奪われやりたい事もできないなんて可哀想じゃありませんか？

認知症は年をとるとなりやすくなってしまふ仕方のないものだとまず受け入れる。
 その上で、自分も勘違いや記憶違いをしてしまう時があるので、認知症の人は常にそのような状態にあると思ったら、優しく理解してあげようと思えるのではないかな。

認知症の人の家族と交流を持つ機会を作ったり、認知症を体験できる映像などがあればいいと思う。

私は認知症を知るべきだと思います。
 1つめは多様性を理解する事です。
 認知症は単なる病気ではなく、さまざまな原因によって引き起こされます。
 異なるタイプを知ることが重要です。
 2つめは進行性がある事を覚えるというものです。
 しかし、進行には個人差があるためすぐに悪化してしまう事もあります。
 3つめは継続的にケアをしていく事です。
 患者のケアは続けなくてはいけない病気のため専門のチームやプランが必要ですが、その負担を家族が受ける事もあるためその支援も長期的なものであるべきです。
 以上をふまえて私は学校などの公共の場に知識として残るポスターを作るべきだと思います。

認知症について正しく理解できるようにするための、動画や画像をSNSにアップロードしたり、人の目につきやすいように(TV、SNSの動画配信サイトのCMにしたり等)する

身近にいないと実感わかないし具体例でもあげながら講演会とかしたらいいと思います。
 やるにしても希望制にしないとかやる気ない人が集まって寝たり遊ぶだろうとかという面白い話もしリアスな内容だから難しい、そもそもみんながみんな正しく全て理解させるなんて不可能だと思うので身近にできてから身をもって知るか介護職とかの専門家とかにでも頼むのが一番いい策だと思います。

認知症は名前は知られているのに、実際にはどのようなものなのか、あまり知られていません。
 その理由として2つのことが考えられます。
 1つ目は名前を知っていることで認知症について知ったつもりになってしまっていることです。
 これはウェブなどで「認知症検定」のようなものを作り、認知症に関する知識の少なさを自覚してもらえば解決できると思います。
 2つ目は身近に認知症の人がいないことです。
 これに関しては、区のイベント等で認知症の方とのふれあいイベントをやればよいと思います。

講演会等を開く。
 経験者の話を聞く方が理解できる。

認知症をよく知ってもらうための授業をする。
 認知症にならないためにはどうすればいいのかをみんなに知ってもらう。
 認知症について知る機会を作る必要がある。

提案内容

認知症を抱える身において、認知症と会話することは困難であり、また、その認知症を理解するのは本当に難しいと思う。同じことを何度も聞いてきたり、ヒステリーになって人間不信になったり。優しくオープンに接しようとしても、ついカッとなって強く当たってしまった。一度同じ立場に立って認知症を体験してみたり、認知症に特化した本や医師を多くの学校に配布や講義を行ってみて、認知症をより深く知るようになれば、良いのではないだろうか。また、認知症を生まないように、日頃の食生活やこまめな運動を呼びかける等をしていてもよいだろう。

認知症はこういう症状なんだと体験できる所を設けて、幅広い年代の人に認知症のことを理解してもらおう。理解してもらったところで介護の充実などを求めてば金をつる。

認知症について正しい理解を示すためには、子供や大人が日常生活でよく見るようなテレビ番組などに認知症についてのドラマやアニメなどをとり入れるのが良いと思います。そうすれば、普段仕事や部活で忙しくて認知症についての講座を聞ける時間がないという人でも日常生活の中で認知症について理解を深めることができる機会を得ることができるのでとても有効的だと思いました。

認知症を正しく理解してもらうには認知症になってしまった方の親族にどのような苦しい出来事が起こり、どのような方法で解決していったのかを具体的に話してもらうのが良いと思う。

認知症の方にやってはいけないことや正しい接し方を理解するためにケアの方法や接し方を教える講座を市や区で行えば良いと思う。認知症の方に直接聞くことはできないがその講座などでどう接すればよいか考える時間ができると思う。講座に参加する人が少ないという問題に関しては若い人がよく使ったりするSNSに投稿するだけではなく、人気の高いインフルエンサーの方に協力してもらおうとよりその文面やサイトを見てもらえらると思う。

認知症を正しく理解したり、知ってもらうためにはやはり認知症の方とその方の付き添いの方から講演会を開いて、話を実際に聞くことがよいと思うのですが、皆に知ってもらおうとしても、大人は働いているため忙しいし、あまりそういうことに触れ合うことがない子供たちには自分から足を運ぶことがあまりない。で子供たちには幸い、学校というものがあるため、学校で講演会を開いて認知症について知ってもらう機会をつくるのはどうだろうか。

まず、彼らを人間だと思ふことをやめましょう。同じ人間ならば、私達は彼らと対等でなければなりません。しかし現実には健常者が振り回されるばかり…。「どうして同じ人間なのに私達ばかり辛い目に…」と考えてしまいます。ですが彼らと私達とは別の生物として扱えることで、「自分達とは別の生き物だから仕方ない」という考えが生まれます。自分で自分の生活を営めない生物は人間とは言えないでしょう。人から施しを受けるならば、それ相応の態度が必要です。生産性のない生物は他人に“生かしてもらおう”しかないのです。

実際に認知症の人と交流する場をもうけるのはどうか。自分が認知症なんだと理解していない認知症の人向けの認知症についての講義や認知症の専門の方に診断してもらうのはどうか。

全ての病気類において、正しく理解するには、一度でも、その体験してみないと理解することはできず、ましてや共感することや、助けることを自主的することなど他人事を感じてしまうでしょう。なので、まず始めに、VRなどで体験をすることが必要でしょう。認知症の人からの高質な話にも、感じることは、限界があります。実際に体験することでようやく理解することができると思います。

市が認知症についての情報を全て開示し伝える。実際に認知症の人の家族に話を聞く。

認知症は今、治療法がまだありません。それに見た目ではわからない病気です。なので、介護している方が暴行してしまう、という情報が多々あります。テレビでも介護施設にいる高齢の方に介護施設で働いている方が暴行してけがをしてしまった。というニュースを私もよく耳にします。そこで私は幅広い世代の方と交流するといいのではないかと考えました。交流を増やすことで認知症の方と健常者の考え方の違いがわかるのではないのかなと思います。それに、認知症の方に接するときに、やさしく声をかけ、やさしく、わかりやすく会話をすれば相手の認知症の方にも思いが伝わると思います。

- ・クイズ形式でやってみるといいと思う→クイズだけだとつまらないから、けいひんをつけてみたり、みんなが知っているような場所でやってみる。
- ・学校で、認知症の人について考える機会を作ったらいいと思う→道徳でやってみたり、実際に認知症の人からお話を聞かせてもらったりして、理解を深める

認知症とはどのような病気であつ頃からなる方が多いのか知らない人が多いと思うので、認知症について学ぶ講演会を開いて、まずはみんなに知ってもらうことが大切だと思いました。その後に、認知症の方々とふれ合うことができるような交流イベントがあったら、もっと良くなると思います。なぜなら、イベントを通して、認知症についてを子供から大人まで知ってもらう機会になるからです。認知症の方がすこしやすくなるためには、ボランティアを募って手伝いを行ったり、ポスターで、みんなに手伝ってもらったりした方がよいかと考えました。また、ユニバーサルデザインやバリアフリーに目を向けて、改善した方がよいところは改善するなど、それで寄付をするなどしたら良いと思います。バリアフリーだと、階段をスロープに変えるために寄付を行ったら協力することになります。このようにできることはたくさんあると思うので、街中で困っている方を見つけたら、声をかけてあげることが、認知症の方を応援する第一歩につながるのではないのでしょうか。

提案内容

「認知症」を正しく理解するためには基本的な知識を身につける必要があります。そのため孫世代にあたる小中学校に包括センターの職員を招いて認知症について話してもらおうべきと考えます。理由は2つあります。

1つ目は、「認知症」が広く認知された今でも誤解や偏見があるということです。軽度な症状の方やある特定のことで以外にはわかる方がいるのに「何もできない」などと決めつける人がいることは由々しき事態です。2つ目は、認知症の方とその家族が変わらず生活できると思うからです。「認知症」について考えていた際、友人に「祖母が認知症になってしまい、どう接すればよいかかわからない」と相談されました。認知症の方も家族の一員です。それが「認知症」というだけで家族の間に距離ができるのは違うと考えます。このような事態にならないよう早期に理解を深めるべきと考えます。具体的には体育館に全校生徒を集め、認知症について職員の方に講義してもらおうという流れです。これからは認知症の方がもっと増えていくと思います。これからの社会を担う我々が理解を深めることで社会全体が「認知症の方」に対して優しいものになると考えます。

- 動画を投稿できるSNSの広告で15秒くらいスキップできないようにして認知症について何なのか流す
- 認知症カードを配る
- 認知症〇×クイズを行う

学校などに認知症についてお話をする機会を作って、身近な病気であることをしてもらおう。また、認知症の人から体験談や困っていることを実際に聞いてみる。

市の人が学校に来てもらって、認知症講座をしてもらおう。若い世代が理解したら、その下に世代にも伝えたりする事があったりするかもしれないから。

認知症の方やその家族の話聞いて、まずは認知症がどういうものなのか理解してもらおう。実際に認知症の方と話をしてみたり、過ごしてみたりして、認知症を身近に感じてもらう。そうすれば、もし自分の家族が認知症になっても、適切な対応をとれると思う。

認知症を他の人に知らせるものを作る。

認知症について知ってもらわないと、地域で応援できないと思う。だから、最初に色々な人に知ってもらおうべきだと思う。地域ごとに認知症についての問題を作って、どれだけ知っているのかを調べてみる。(どっちの行動が認知症の可能性のあるのかとか) そしたら、認知症がどんなものなのかプリントで配ったり地域の人に教えたりしてみる。

認知症のタグを作る、市民イベントで認知症応援コーナーを開く

認知症をテーマにした映画・ドラマを作る。

認知症から見た世界の動画をつくる。小学校の道徳の授業などで認知症について考える機会を設ける。社会見学で老人ホームの看護師の体験を学校でする。

学校教育として取り入れてみてはどうでしょう。認知症について学ぶ機会があれば、理解もできるのでは？

市民の人々がより認知症について理解するべく、身近な認知症の人と共に参加できる、認知症についてのイベントを開催などするといいと思う。

認知症についての講座で、体験型のものを作る。認知症についての絵本を作る。(子どもが読みやすいような絵と内容重視) オレンジリングの存在をもっと広めたり、オレンジリングの他にも特典を作る。

認知症はそうでない人にとって、理解がとても難しいと思っています。さらに高齢者であればどの程度が認知症なのか病院で診断するまで分からなかったり、若い人でも若年性認知症というのがあるため、知らない間に認知症になっていた、なんてことがありえると考えます。なので、そういった人たちを隔たりなく接することが必要だと思います。

SNSや、電車の広告に取り入れる、がいとうえんげつなどをして、身近な人に興味を持ってもらう。

少しでも認知症だと感じる人がいるのなら、その感じた人(本人)はすぐに病院で検査をして、認知症ならば正式に書類などをもらわないといけないうい、周りもそれを勧めなければならない。そして電車などの公共交通機関などを運用する場合は、周りの人に理解を得られるようにマークなどを身に付けて動かなくてはならないと思う。周りは理解して協力することが大事だと思った。

- 学校での授業を行う。
- なぜそうなるのかの仕組みまで説明する。
- 認知症の人に1度会ってみる。

- 学校の授業にて認知症を正しく教える。
- 「さいたま市認知症サポーター養成講座」の広告を電車等で出す。

認知症に関する動画を作り、学校教育で活用する。また誰でも気軽に見れるようにSNSや動画投稿サイト等で投稿する。SNSは若者が毎日のように利用しているため、効果的だと思う

さいたま市や各種福祉施設・機関から有識者を市内の学校に派遣し、認知症の理解増進を図る内容の出前授業を行う。

- 学校で認知症についての講座を行ったりする
- 色々な人に知ってもらうために、SNS(インターネット)やテレビなどで認知症について、

人の目に付きやすい所にポスターを貼る。新聞やテレビなどメディアを通じて正しい知識を教える

認知症のことを正しく知る必要がある。しかし、「認知症講座」みたいなことをやれば、特別感を感じ、さらなる偏見が生まれると思う。だから、認知症を当たり前のことにする必要がある。だから、保健体育の授業でも道徳の授業でも小学校低学年に学ばせる(小学校低学年はまだ固定概念が少ないから)ことで、認知症を正しく学べると思う。

- にんちしょうの人だと分かる車のしょしんしゃマークみたくのをつける。
- これからにんちしょうの人はふえていくと思うので、小、中、高を対象ににんちしょうについてなどをこうざするじかんをつくる。

提案内容

<p>認知症を正しく理解することは難しい。 理解をすることによって新たな問題（ストレスなど）が起きることもある。 私が大切だと思うのは距離感だ。 適切な距離をとり相手と接するのがいいと、私は思う。 そのためにも、学校などの教育現場で、認知症について、より深く知ることが理解につながる。</p>
<p>認知症を理解するために、認知症を学習する場をつくる。 ただ募集して学ぶだけじゃ、人が集まらないと思うから、来てくれた人には認知症に関わるものをプレゼントする。</p>
<p>小・中学校で認知症についての講座を行う。 偏見や誤解があるのは認知症に対する理解が少ないためだと思うのでそのようなことを行えば、防げると思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方にあらかじめ住所と電話番号が書いてある紙をネームプレートとしてかけておくことで、迷子になってしまった時も周囲の人が助けられるようにする。 ・町中に「ちょっと待ってその外出」的なポスターを貼りまくる。 ・認知症を正しく理解してもらうために小・中学校に特別授業として取り入れる。
<p>認知症は誰でもなりうるため、偏見をもたずに、信用できるソースから情報を得る。 今では、認知症は身近な病気であるため、家族や地域でサポートをする体制を当たり前にする。</p>
<p>以前、学校で認知症に関する講演会がありました。 そこで感じたのは、自分たちの“無知さ”でした。 わかっていなくても、わかろうともしていなかったんだなと思いました。 子どものうちから認知症についての正しい知識を教えられた方が社会がよりよくなっていくのではないのかなと思いました。 具体的に言うと、地震が起きたときにどうするか、は日本人なら誰もが知っています。 そのように、常識にするには学校での教育が必要不可欠だと思います。 学校で毎年授業をしたり、プリントを配るだけで全然変わるのではないかと思います。 大人は、SNSを使ったり、TVニュースに流したり、新聞に記事をのせたりしてとにかく人の目に入るようにしたいと思っています。 時間も手間もかかるとは思いますが、そうした地道な活動によって意識は変わるものだと思います。</p>
<p>さいたま市の中学校でその人たちと1日の生活を共にする体験 2班 価値感を共有するために認知症体験動画を流す。 市報など書く。 若者に見てもらうためにCMを作る。 ホームページを作る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設に行き、職業体験をしたり、介護する人にインタビューをする。 ・学校や職場などで授業をひらく。（特に小、中学校） ・認知症の家族から話を聞く。 ・杉並区で行われている「みまもりあいアプリ」の導入をしたほうがよいと思った。 ・認知症マークを作る。（病院で診だんを受けて渡される。）
<p>義務教育中は、各学校にて、義務教育として教員から教えるようにする。 義務教育の生徒以外は、地域で教えるようにする。</p>
<p>認知症の人たちへ 気をつかったり、やさしくして、病院につれていってあげたり。 まづは気づかいはたいせつにしよう ふあんがあったときは ひとますおちつくこと、話をする事、おちついてそのばではなせるかとかくすりをのんだり するとか やってあげてほしいし または病院を行ってあげること、 ちゃんと話をしてあげてほしいとおもいます 気づかいは、おちついてはなしをすること まづはおちつくことです。</p>
<p>認知症をしってもらう事が、ひつようだと思うので、小学校か中学校で、認知症についての話をするきかいを作ってもらおう。</p>
<p>ヘルプマークみたいに認知症ですよというマークをつくる。 認知症の人たちのために安心してもらえるような所をつくる（老人ホームみたいなやつ） デイサービスみたいなやつをつくる いっこいっこいていねいになんともやさしくおしえる。</p>
<p>にんげんドッグを受ける。 精神科の病院を受けれるサービスを出す。 老人ホーム</p>
<p>小学校頃から、ちゃんとした認知症の知識がある人からの出張授業をおこなってもらおうことが良いのではないのでしょうか。 私の中学校に薬物乱用防止教室やジェンダーに関する教室はありますが認知症についてはありません。 例えば小学生、中学生でも認知症が関係ない訳では無いと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症についてのチラシやポスターを作成する ・認知症になったら自分がどうなるのかを体験できる講座を開いて誤解や偏見をなくし理解を深める ・小中学校では総合の授業で認知症について自分たちで調べる時間を設けたり、認知症をテーマにみんなで考えたり道徳の授業で認知症の方の周りの人のお話を題材にして授業を行うなどする ・認知症サポーター養成講座のチラシやポスターを作成する
<p>僕が認知症という言葉を知ったのは小学5年生の頃で、その時は、クラスメイトがちょっと物忘れ物をした子に対して、軽い気持ちで言っていました。 きちんと意味も分からない言葉を、皆が流されて使用している…。 そのような状況は色々な所でみられると思います。 また、認知症サポーター養成講座などがあっても、その存在を知りませんでした。 おそらくほとんどの人がそうだと思います。 だから、誤った情報を知ってしまう前に、例えば学活などの時間に、学校で認知症を正しく理解する為の時間を取り入れたら良いと思います。 早くに学ぶ事で正しい情報を知る事ができれば、認知症の人に対するの偏見もなくなり、同時に身近な人の手助けもできるのではないかと思います。</p>
<p>認知症を正しく理解するには、やはり実際に認知症を抱えている人々と触れ合うのが一番だと思います。 ですから、そんな人々を世話してくれているヘルパーさんの職業体験会などを、公共の場で行なってみたり、認知症を抱える人のご家族の方々に話を聞ける機会を作ってみたりするのがいいと思います。</p>